

調査の結果

第Ⅲ部 顕在化されにくい 読み書き困難の実態

第1章 顕在化されにくい要因

1. 得意だと思っていること

表3-1-1-1

あなたが得意なことだと思うことすべて		数	比率
6a	文章を読むこと	263	29%
6b	文章を書くこと	158	17%
6c	人と話すこと	190	21%
6d	説明すること	92	10%
6e	人の話を聞くこと	154	17%
6f	話す相手の言いたい内容が推測できること	79	9%
6g	計算すること	198	22%
6h	金銭管理	116	13%
6i	相手にわかりやすく話すこと	71	8%
6j	大勢で物事を進めていくこと	54	6%
6k	ひとりで物事に取り組むこと	372	41%
6l	新しい方法やアイデアを思いつくこと	177	19%
6m	細かい手作業	178	20%
6n	運動すること	164	18%
6o	手早く作業を進めること	108	12%
6p	最後まで作業を完成させること	238	26%
6q	リズム感が良いこと	142	16%
6r	その他	61	7%
6s	特になし	105	12%
60	未回答	6	1%
計		2926	321%

現在の診断・判定・教育的判断

[2]②a	LD
[2]②b	AD/HD
[2]②c	ディスレクシア
[2]②d	協調性運動障害
[2]②e	自閉症スペクトラム
[2]②f	チック・トゥレット症
[2]②g	知的障害
[2]②h	その他
[2]②i	診断・判定・教育的判断なし
[2]②0	未回答

表3-1-1-2-1 「診断・判定」と「得意だと思っていること」

		診断・判定・教育的判断										計
		[2]②a	[2]②b	[2]②c	[2]②d	[2]②e	[2]②f	[2]②g	[2]②h	[2]②i	[2]②0	
得意だと思 っているこ と	6a	52	54	3	11	198	4	49	6	4	0	381
	6b	22	33	1	5	115	5	34	1	2	0	218
	6c	37	43	2	10	121	9	67	5	5	0	299
	6d	10	20	1	3	68	2	13	0	1	0	118
	6e	27	27	5	3	108	6	38	5	2	0	221
	6f	19	22	2	1	49	7	15	3	4	0	122
	6g	25	32	2	10	157	6	40	2	4	0	278
	6h	16	12	2	4	89	3	22	2	3	1	154
	6i	12	17	1	2	48	3	15	1	2	0	101
	6j	10	15	0	3	32	1	19	2	2	0	84
	6k	72	63	9	16	284	8	67	5	9	0	533
	6l	30	42	1	8	125	4	27	3	7	0	247
	6m	21	33	5	2	135	6	43	2	9	0	256
	6n	31	27	2	3	121	5	57	2	1	1	250
	6o	14	18	2	1	80	2	30	1	5	0	153
	6p	41	36	6	12	184	8	71	5	4	0	367
	6q	25	32	0	3	94	7	29	1	5	0	196
	6r	10	11	2	1	46	3	14	1	1	0	89
	6s	16	15	2	2	76	1	27	4	1	0	144
60	2	3	0	0	4	1	2	0	0	0	12	
計		492	555	48	100	2134	91	679	51	71	2	4223
実数		162	158	19	36	660	24	227	23	20	1	1330

表3-1-1-2-2 「診断・判定」基準の「得意だと思っていること」比率

		診断・判定・教育的判断										計
		[2]②a	[2]②b	[2]②c	[2]②d	[2]②e	[2]②f	[2]②g	[2]②h	[2]②i	[2]②0	
得意だと思 っていること	6a	32%	34%	16%	31%	30%	17%	22%	26%	20%	0%	29%
	6b	14%	21%	5%	14%	17%	21%	15%	4%	10%	0%	16%
	6c	23%	27%	11%	28%	18%	38%	30%	22%	25%	0%	22%
	6d	6%	13%	5%	8%	10%	8%	6%	0%	5%	0%	9%
	6e	17%	17%	26%	8%	16%	25%	17%	22%	10%	0%	17%
	6f	12%	14%	11%	3%	7%	29%	7%	13%	20%	0%	9%
	6g	15%	20%	11%	28%	24%	25%	18%	9%	20%	0%	21%
	6h	10%	8%	11%	11%	13%	13%	10%	9%	15%	100%	12%
	6i	7%	11%	5%	6%	7%	13%	7%	4%	10%	0%	8%
	6j	6%	9%	0%	8%	5%	4%	8%	9%	10%	0%	6%
	6k	44%	40%	47%	44%	43%	33%	30%	22%	45%	0%	40%
	6l	19%	27%	5%	22%	19%	17%	12%	13%	35%	0%	19%
	6m	13%	21%	26%	6%	20%	25%	19%	9%	45%	0%	19%
	6n	19%	17%	11%	8%	18%	21%	25%	9%	5%	100%	19%
	6o	9%	11%	11%	3%	12%	8%	13%	4%	25%	0%	12%
	6p	25%	23%	32%	33%	28%	33%	31%	22%	20%	0%	28%
	6q	15%	20%	0%	8%	14%	29%	13%	4%	25%	0%	15%
	6r	6%	7%	11%	3%	7%	13%	6%	4%	5%	0%	7%
	6s	10%	9%	11%	6%	12%	4%	12%	17%	5%	0%	11%
	60	1%	2%	0%	0%	1%	4%	1%	0%	0%	0%	1%
計		304%	351%	253%	278%	323%	379%	299%	222%	355%	200%	318%

- ・「[2]②c:ディスレクシア」の診断がある人は、「6a:文章を読むこと」「6b:文章を書くこと」より「6e:人の話を聞くこと」のほうが得意だという人の割合が高い。
- ・「診断名」に限らず「6k:ひとりで物事に取り組むこと」は得意だと思っている人が多い。
- ・「[2]②a:LD」「[2]②c:ディスレクシア」「[2]②d:協調性運動障害」の診断があっても、「6a:文章を読むこと」「6b:文章を書くこと」が得意だと思っている人も 5%～32% いる。
- ・「[2]②f:チック・トゥレット症」の診断名以外は、「6b:文章を書くこと」より「6a:文章を読むこと」のほうが得意だと思っている人が多い。

あなたが得意なことだと思うことすべて		現在の診断・判定・教育的判断	
6a	文章を読むこと	[2]②a	LD
6b	文章を書くこと	[2]②b	AD/HD
6c	人と話すこと	[2]②c	ディスレクシア
6d	説明すること	[2]②d	協調性運動障害
6e	人の話を聞くこと	[2]②e	自閉症スペクトラム
6f	話す相手の言いたい内容が推測できること	[2]②f	チック・トゥレット症
6g	計算すること	[2]②g	知的障害
6h	金銭管理	[2]②h	その他
6i	相手にわかりやすく話すこと	[2]②i	診断・判定・教育的判断なし
6j	大勢で物事を進めていくこと	[2]②0	未回答
6k	ひとりで物事に取り組むこと		
6l	新しい方法やアイデアを思いつくこと		
6m	細かい手作業		
6n	運動すること		
6o	手早く作業を進めること		
6p	最後まで作業を完成させること		
6q	リズム感が良いこと		
6r	その他		
6s	特になし		
60	未回答		

2. 一番苦手だと思っていること

表3-1-2-1 「診断・判定」と「一番苦手だと思っていること」

		診断・判定・教育的判断										計
		[2]②a	[2]②b	[2]②c	[2]②d	[2]②e	[2]②f	[2]②g	[2]②h	[2]②i	[2]②0	
一番 苦手 だ と 思 っ て い る こ と	7a 字を読むこと	0	0	0	0	6	0	5	1	0	0	12
	7b 文書を読むこと	1	0	1	0	3	0	3	0	0	0	8
	7c 字を手書きすること	15	9	5	2	24	2	7	0	0	0	64
	7d 人と話すこと	13	8	2	0	85	3	19	2	2	0	134
	7e 文章を手書きすること	10	6	0	1	18	1	7	2	2	0	47
	7f 説明すること	13	11	2	2	49	1	26	3	2	0	109
	7g 計算すること	17	13	1	1	33	0	24	3	0	0	92
	7h 金銭管理	5	5	0	0	14	1	14	1	0	0	40
	7i 読み書きに時間がかかること	2	1	2	0	8	0	0	0	0	0	13
	7j 人の話を聞くこと	2	1	0	0	19	1	5	0	0	1	29
	7k 相手にわかりやすく話すこと	8	14	2	3	70	3	17	3	1	0	121
	7l 話す相手の言いたい内容を推測すること	10	8	1	3	58	0	15	0	3	0	98
	7m 落ち着いて物事に取り組むこと	2	4	0	2	14	1	3	0	0	0	26
	7n 細かい手作業	1	3	0	1	15	1	5	0	0	0	26
	7o 手早く作業を進めること	7	3	0	1	24	0	1	1	1	0	38
	7p 整理整頓	15	20	1	7	35	3	16	3	3	0	103
	7q 公共の場で静かにすること	1	1	0	0	5	1	1	0	0	0	9
	7r 道具や用具を使うこと	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	7s その他	0	2	0	0	16	2	5	0	0	0	25
	7t 特になし	1	2	0	0	19	0	5	0	0	0	27
	70 未回答	4	5	0	0	7	2	1	0	0	0	19
	7W 複数回答	35	42	2	13	137	2	47	4	6	0	288
	7Wab 複数回答でaかbを含む	10	8	1	1	25	1	15	1	2	0	64
	7Wce 複数回答でcかeを含む	24	24	2	8	36	0	14	1	3	0	112
	7ab 全部の回答でaかbを含む	11	8	2	1	34	1	23	2	2	0	84
	7Nab 全部の回答でaとbを含まない	151	150	17	35	626	23	204	21	18	1	1246
	7ce 全体の回答でcかeを含む	49	39	7	11	78	3	28	3	5	0	223
	7Nce 全体の回答でcとeを含まない	113	119	12	25	582	21	199	20	15	1	1107
実数		162	158	19	36	660	24	227	23	20	1	1330

	現在の診断・判定・教育的判断
[2]②a	LD
[2]②b	AD/HD
[2]②c	ディスレクシア
[2]②d	協調性運動障害
[2]②e	自閉症スペクトラム
[2]②f	チック・トゥレット症
[2]②g	知的障害
[2]②h	その他
[2]②i	診断・判定・教育的判断なし
[2]②0	未回答

表3-1-2-2 「診断・判定」基準の「一番苦手だと思っていること」比率

		診断・判定・教育的判断										計	
		[2]②a	[2]②b	[2]②c	[2]②d	[2]②e	[2]②f	[2]②g	[2]②h	[2]②i	[2]②0		
一番 苦手 だ と 思 っ て い る こ と	7a	字を読むこと	0%	0%	0%	0%	1%	0%	2%	4%	0%	0%	1%
	7b	文書を読むこと	1%	0%	5%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	1%
	7c	字を手書きすること	9%	6%	26%	6%	4%	8%	3%	0%	0%	0%	5%
	7d	人と話すこと	8%	5%	11%	0%	13%	13%	8%	9%	10%	0%	10%
	7e	文章を手書きすること	6%	4%	0%	3%	3%	4%	3%	9%	10%	0%	4%
	7f	説明すること	8%	7%	11%	6%	7%	4%	11%	13%	10%	0%	8%
	7g	計算すること	10%	8%	5%	3%	5%	0%	11%	13%	0%	0%	7%
	7h	金銭管理	3%	3%	0%	0%	2%	4%	6%	4%	0%	0%	3%
	7i	読み書きに時間がかかること	1%	1%	11%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
	7j	人の話を聞くこと	1%	1%	0%	0%	3%	4%	2%	0%	0%	100%	2%
	7k	相手にわかりやすく話すこと	5%	9%	11%	8%	11%	13%	7%	13%	5%	0%	9%
	7l	話す相手の言いたい内容を推測すること	6%	5%	5%	8%	9%	0%	7%	0%	15%	0%	7%
	7m	落ち着いて物事に取り組むこと	1%	3%	0%	6%	2%	4%	1%	0%	0%	0%	2%
	7n	細かい手作業	1%	2%	0%	3%	2%	4%	2%	0%	0%	0%	2%
	7o	手早く作業を進めること	4%	2%	0%	3%	4%	0%	0%	4%	5%	0%	3%
	7p	整理整頓	9%	13%	5%	19%	5%	13%	7%	13%	15%	0%	8%
	7q	公共の場で静かにすること	1%	1%	0%	0%	1%	4%	0%	0%	0%	0%	1%
	7r	道具や用具を使うこと	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	7s	その他	0%	1%	0%	0%	2%	8%	2%	0%	0%	0%	2%
	7t	特になし	1%	1%	0%	0%	3%	0%	2%	0%	0%	0%	2%
	70	未回答	2%	3%	0%	0%	1%	8%	0%	0%	0%	0%	1%
	7W	複数回答	22%	27%	11%	36%	21%	8%	21%	17%	30%	0%	22%
	7Wab	複数回答でaかbを含む	6%	5%	5%	3%	4%	4%	7%	4%	10%	0%	5%
	7Wce	複数回答でcかeを含む	15%	15%	11%	22%	5%	0%	6%	4%	15%	0%	8%
	7ab	全部の回答でaかbを含む	7%	5%	11%	3%	5%	4%	10%	9%	10%	0%	6%
	7Nab	全部の回答でaとbを含まない	93%	95%	89%	97%	95%	96%	90%	91%	90%	100%	94%
	7ce	全体の回答でcかeを含む	30%	25%	37%	31%	12%	13%	12%	13%	25%	0%	17%
	7Nce	全体の回答でcとeを含まない	70%	75%	63%	69%	88%	88%	88%	87%	75%	100%	83%

- ・すべての「診断名」で「7a:字を読むこと」「7b:文章を読むこと」が苦手だと思っている割合は低い。
- ・すべての「診断名」で「7a:字を読むこと」「7b:文章を読むこと」よりも「7c:文字を手書きすること」が苦手だと思っている割合が高い。

	現在の診断・判定・教育的判断
[2]②a	LD
[2]②b	AD/HD
[2]②c	ディスレクシア
[2]②d	協調性運動障害
[2]②e	自閉症スペクトラム
[2]②f	チック・トゥレット症
[2]②g	知的障害
[2]②h	その他
[2]②i	診断・判定・教育的判断なし
[2]②0	未回答

3. 本人が工夫していること

表3-1-3-1 「診断・判定」と「読み書きについての療育や指導の状況」

		診断・判定・教育的判断										計
		[2]②a	[2]②b	[2]②c	[2]②d	[2]②e	[2]②f	[2]②g	[2]②h	[2]②i	[2]②0	
本人が工夫していること	8a	4	5	3	0	9	0	4	0	0	0	25
	8b	87	82	12	18	298	16	84	11	12	1	621
	8c	4	2	1	2	7	1	2	0	0	0	19
	8d	44	38	10	7	188	4	56	3	5	0	355
	8e	10	15	1	3	43	3	7	0	0	0	82
	8f	32	23	8	8	96	2	25	3	2	0	199
	8g	5	7	1	3	14	1	8	0	1	0	40
	8h	11	9	0	1	41	1	19	1	0	0	83
	8i	48	46	3	13	228	4	82	10	7	0	441
	80	5	9	0	0	14	2	4	0	0	0	34
計		250	236	39	55	938	34	291	28	27	1	1899
実数		162	158	19	36	660	24	227	23	20	1	1330

表3-1-3-2 「診断」「診断・判定」基準の「読み書きについての療育や指導の状況」比率

		診断・判定・教育的判断										計
		[2]②a	[2]②b	[2]②c	[2]②d	[2]②e	[2]②f	[2]②g	[2]②h	[2]②i	[2]②0	
本人が工夫していること	8a	2%	3%	16%	0%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	2%
	8b	54%	52%	63%	50%	45%	67%	37%	48%	60%	100%	47%
	8c	2%	1%	5%	6%	1%	4%	1%	0%	0%	0%	1%
	8d	27%	24%	53%	19%	28%	17%	25%	13%	25%	0%	27%
	8e	6%	9%	5%	8%	7%	13%	3%	0%	0%	0%	6%
	8f	20%	15%	42%	22%	15%	8%	11%	13%	10%	0%	15%
	8g	3%	4%	5%	8%	2%	4%	4%	0%	5%	0%	3%
	8h	7%	6%	0%	3%	6%	4%	8%	4%	0%	0%	6%
	8i	30%	29%	16%	36%	35%	17%	36%	43%	35%	0%	33%
	80	3%	6%	0%	0%	2%	8%	2%	0%	0%	0%	3%
計		154%	149%	205%	153%	142%	142%	128%	122%	135%	100%	143%

- ・診断名に限らず「8b:パソコンやスマホで漢字を確認する」割合が一番高い。
- ・診断名に限らず「8c:IT機器の音声入力ソフト」や「8e:紙の書類にパソコンで入力できるソフト」の利用の割合は低い。
これも、支援ソフトの認知度の問題かもしれない。
- ・「[2]②c:ディスレクシア」の診断がある人は、提出書類を「8d:鉛筆で下書き」したり、「8f:複数枚コピーして書き直しできるようにし」たり工夫をしている割合が高い。

書類を読んだり書いたりするときに、工夫していること

8a	IT機器の読み上げソフトを使って確認している
8b	パソコンやスマホで漢字を確認する
8c	IT機器の音声入力ソフトを利用している
8d	提出書類は鉛筆で下書きしている
8e	紙の書類にパソコンで入力できるソフトを利用している
8f	提出用紙は複数枚コピーして書き直しできるようにしている
8g	読みやすいフォントに変換してから読んでいる
8h	その他
8i	特になし
80	未回答

現在の診断・判定・教育的判断

[2]②a	LD
[2]②b	AD/HD
[2]②c	ディスレクシア
[2]②d	協調性運動障害
[2]②e	自閉症スペクトラム
[2]②f	チック・トゥレット症
[2]②g	知的障害
[2]②h	その他
[2]②i	診断・判定・教育的判断なし
[2]②0	未回答

4. 読み書き困難についての認識

表3-1-4-1-1 「一番苦手なこと」と「働くうえで、読み書きについての困難さ」

		働くうえで、読み書きについての困難さ							計	実数
		[3]④a	[3]④b	[3]④c	[3]④d	[3]④e	[3]④f	[3]④0		
苦手なこと	7a 字を読むこと	3	2	5	4	2	0	2	18	7
	7b 文書を読むこと	1	2	4	2	3	0	0	12	6
	7c 字を手書きすること	16	16	14	17	19	3	5	90	34
	7d 人と話すこと	24	23	44	25	35	6	33	190	97
	7e 文章を手書きすること	15	10	13	13	18	4	3	76	31
	7f 説明すること	20	17	39	23	31	7	14	151	67
	7g 計算すること	20	14	26	22	28	3	10	123	53
	7h 金銭管理	5	6	17	6	15	3	5	57	27
	7i 読み書きに時間がかかること	4	4	6	6	5	1	2	28	10
	7j 人の話を聞くこと	0	7	16	3	9	1	4	40	22
	7k 相手にわかりやすく話すこと	13	16	39	17	31	9	19	144	77
	7l 話す相手の言いたい内容を推測すること	15	18	36	25	29	9	12	144	67
	7m 落ち着いて物事に取り組むこと	2	3	7	3	3	4	4	26	16
	7n 細かい手作業	3	3	8	4	6	0	8	32	17
	7o 手早く作業を進めること	6	5	9	10	16	4	10	60	30
	7p 整理整頓	12	19	27	17	24	6	18	123	62
	7q 公共の場で静かにすること	1	1	3	2	2	1	3	13	6
	7r 道具や用具を使うこと	0	1	1	0	1	0	0	3	1
	7s その他	4	5	12	3	10	1	4	39	17
	7t 特になし	3	5	6	1	7	3	6	31	20
	70 未回答	1	2	4	4	3	1	2	17	9
	7W 複数回答	49	46	85	45	72	13	47	357	180
	7Wab 複数回答でaかbを含む	16	12	22	14	19	4	9	96	37
	7Wce 複数回答でcかeを含む	26	19	29	25	33	3	9	144	57
	7ab 全部の回答でaかbを含む	20	16	31	20	24	4	11	126	50
	7Nab 全部の回答でaとbを含まない	197	209	390	232	345	75	200	1648	806
	7ce 全体の回答でcかeを含む	57	45	56	55	70	10	17	310	122
	7Nce 全体の回答でcとeを含まない	160	180	365	197	299	69	194	1464	734

	働くうえで、読み書きについての困難さ
[3]④a	読み書きが苦手なので、職種が限られる
[3]④b	仕事に必要なメモがとれない
[3]④c	文書の内容把握のためには説明が必要
[3]④d	文書の読み書きに時間が掛かる
[3]④e	報告書などの書類が書けない
[3]④f	その他
[3]④0	未回答

表3-1-4-1-2 「一番苦手なこと」基準の
「働くうえで、読み書きについての困難さ」比率

		働くうえで、読み書きについての困難さ							計
		[3]④a	[3]④b	[3]④c	[3]④d	[3]④e	[3]④f	[3]④0	
苦 手 な こ と	7a 字を読むこと	43%	29%	71%	57%	29%	0%	29%	257%
	7b 文書を読むこと	17%	33%	67%	33%	50%	0%	0%	200%
	7c 字を手書きすること	47%	47%	41%	50%	56%	9%	15%	265%
	7d 人と話すこと	25%	24%	45%	26%	36%	6%	34%	196%
	7e 文章を手書きすること	48%	32%	42%	42%	58%	13%	10%	245%
	7f 説明すること	30%	25%	58%	34%	46%	10%	21%	225%
	7g 計算すること	38%	26%	49%	42%	53%	6%	19%	232%
	7h 金銭管理	19%	22%	63%	22%	56%	11%	19%	211%
	7i 読み書きに時間がかかること	40%	40%	60%	60%	50%	10%	20%	280%
	7j 人の話を聞くこと	0%	32%	73%	14%	41%	5%	18%	182%
	7k 相手にわかりやすく話すこと	17%	21%	51%	22%	40%	12%	25%	187%
	7l 話す相手の言いたい内容を推測すること	22%	27%	54%	37%	43%	13%	18%	215%
	7m 落ち着いて物事に取り組むこと	13%	19%	44%	19%	19%	25%	25%	163%
	7n 細かい手作業	18%	18%	47%	24%	35%	0%	47%	188%
	7o 手早く作業を進めること	20%	17%	30%	33%	53%	13%	33%	200%
	7p 整理整頓	19%	31%	44%	27%	39%	10%	29%	198%
	7q 公共の場で静かにすること	17%	17%	50%	33%	33%	17%	50%	217%
	7r 道具や用具を使うこと	0%	100%	100%	0%	100%	0%	0%	300%
	7s その他	24%	29%	71%	18%	59%	6%	24%	229%
	7t 特になし	15%	25%	30%	5%	35%	15%	30%	155%
	70 未回答	11%	22%	44%	44%	33%	11%	22%	189%
	7W 複数回答	27%	26%	47%	25%	40%	7%	26%	198%
	7Wab 複数回答でaかbを含む	43%	32%	59%	38%	51%	11%	24%	259%
	7Wce 複数回答でcかeを含む	46%	33%	51%	44%	58%	5%	16%	253%
	7ab 全部の回答でaかbを含む	40%	32%	62%	40%	48%	8%	22%	252%
	7Nab 全部の回答でaとbを含まない	24%	26%	48%	29%	43%	9%	25%	204%
	7ce 全体の回答でcかeを含む	47%	37%	46%	45%	57%	8%	14%	254%
	7Nce 全体の回答でcとeを含まない	22%	25%	50%	27%	41%	9%	26%	199%

- ・「7b:文書を読むこと」が苦手な人は、親が仕事で「[3]④c:文書の内容把握のためには説明が必要」だと心配している割合が高い。
- ・「7i:読み書きに時間が掛かる」ことに困っている人は、親が仕事で「[3]④c:文書の内容把握のためには説明が必要」「[3]④d:文書の読み書きに時間が掛かる」ことを心配している割合が高い。
- ・本人が「7a:字を読むこと」「7b:文章を読むこと」が一番苦手だと思っている場合（7Nab）でも、親が仕事で「[3]④c:文書の内容把握のためには説明が必要」「[3]④e:報告書などの書類が書けない」こと心配している割合が割と高い。
- ・本人が「7c:字が手書きすること」「7e:文章を手書きすること」が一番苦手だと思っている場合（7Nce）でも、親が仕事で「[3]④c:文書の内容把握のためには説明が必要」「[3]④e:報告書などの書類が書けない」こと心配している割合が割と高い。

	働くうえで、読み書きについての困難さ
[3]④a	読み書きが苦手なので、職種が限られる
[3]④b	仕事に必要なメモがとれない
[3]④c	文書の内容把握のためには説明が必要
[3]④d	文書の読み書きに時間が掛かる
[3]④e	報告書などの書類が書けない
[3]④f	その他
[3]④0	未回答

表3-1-4-2-1 「一番苦手なこと」と「文書把握のサポート」

		文書の内容の把握について、ご家族等がしているサポート							計	実数
		[4]①a	[4]①b	[4]①c	[4]①d	[4]①e	[4]①f	[4]①0		
苦 手 な こ と	7a 字を読むこと	3	2	5	3	0	2	0	15	7
	7b 文書を読むこと	1	1	6	5	1	0	0	14	6
	7c 字を手書きすること	8	15	17	15	5	6	2	68	34
	7d 人と話すこと	12	18	50	45	9	25	6	165	97
	7e 文章を手書きすること	9	12	17	15	0	8	0	61	31
	7f 説明すること	9	9	44	27	7	17	3	116	67
	7g 計算すること	10	7	33	22	6	11	3	92	53
	7h 金銭管理	8	7	16	14	4	4	2	55	27
	7i 読み書きに時間がかかること	2	3	7	4	2	2	1	21	10
	7j 人の話を聞くこと	1	2	13	10	4	6	0	36	22
	7k 相手にわかりやすく話すこと	8	13	46	35	7	17	5	131	77
	7l 話す相手の言いたい内容を推測すること	10	16	44	39	6	13	3	131	67
	7m 落ち着いて物事に取り組むこと	1	2	8	4	1	6	1	23	16
	7n 細かい手作業	0	1	9	6	3	6	1	26	17
	7o 手早く作業を進めること	3	4	11	9	6	14	1	48	30
	7p 整理整頓	7	7	28	24	5	16	10	97	62
	7q 公共の場で静かにすること	1	1	3	2	1	1	1	10	6
	7r 道具や用具を使うこと	0	0	1	1	0	0	0	2	1
	7s その他	2	2	15	9	1	1	1	31	17
	7t 特になし	1	2	9	8	1	6	3	30	20
	70 未回答	0	0	5	3	1	2	1	12	9
	7W 複数回答	17	26	110	70	20	50	7	300	180
	7Wab 複数回答でaかbを含む	12	10	26	19	5	7	1	80	37
	7Wce 複数回答でcかeを含む	9	14	38	28	10	15	1	115	57
	7ab 全部の回答でaかbを含む	16	13	37	27	6	9	1	109	50
	7Nab 全部の回答でaとbを含まない	97	137	460	343	84	204	10	1335	806
	7ce 全体の回答でcかeを含む	26	41	72	58	15	29	3	244	122
	7Nce 全体の回答でcとeを含まない	87	109	425	312	75	184	48	1240	734

	文書の内容の把握について、ご家族等がしているサポート
[4]①a	文書の代読
[4]①b	文書の代筆
[4]①c	文書の内容の説明・確認
[4]①d	提出期限など文書の管理
[4]①e	IT 機器などの使い方の説明
[4]①f	全くサポートしていない
[4]①0	未回答

表3-1-4-2-2 「一番苦手なこと」基準の「文書把握のサポート」比率

		文書の内容の把握について、ご家族等がしているサポート							計
		[4]①a	[4]①b	[4]①c	[4]①d	[4]①e	[4]①f	[4]①0	
苦 手 な こ と	7a 字を読むこと	43%	29%	71%	43%	0%	29%	0%	214%
	7b 文書を読むこと	17%	17%	100%	83%	17%	0%	0%	233%
	7c 字を手書きすること	24%	44%	50%	44%	15%	18%	6%	200%
	7d 人と話すこと	12%	19%	52%	46%	9%	26%	6%	170%
	7e 文章を手書きすること	29%	39%	55%	48%	0%	26%	0%	197%
	7f 説明すること	13%	13%	66%	40%	10%	25%	4%	173%
	7g 計算すること	19%	13%	62%	42%	11%	21%	6%	174%
	7h 金銭管理	30%	26%	59%	52%	15%	15%	7%	204%
	7i 読み書きに時間がかかること	20%	30%	70%	40%	20%	20%	10%	210%
	7j 人の話を聞くこと	5%	9%	59%	45%	18%	27%	0%	164%
	7k 相手にわかりやすく話すこと	10%	17%	60%	45%	9%	22%	6%	170%
	7l 話す相手の言いたい内容を推測すること	15%	24%	66%	58%	9%	19%	4%	196%
	7m 落ち着いて物事に取り組むこと	6%	13%	50%	25%	6%	38%	6%	144%
	7n 細かい手作業	0%	6%	53%	35%	18%	35%	6%	153%
	7o 手早く作業を進めること	10%	13%	37%	30%	20%	47%	3%	160%
	7p 整理整頓	11%	11%	45%	39%	8%	26%	16%	156%
	7q 公共の場で静かにすること	17%	17%	50%	33%	17%	17%	17%	167%
	7r 道具や用具を使うこと	0%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	200%
	7s その他	12%	12%	88%	53%	6%	6%	6%	182%
	7t 特になし	5%	10%	45%	40%	5%	30%	15%	150%
	70 未回答	0%	0%	56%	33%	11%	22%	11%	133%
	7W 複数回答	9%	14%	61%	39%	11%	28%	4%	167%
	7Wab 複数回答でaかbを含む	32%	27%	70%	51%	14%	19%	3%	216%
	7Wce 複数回答でcかeを含む	16%	25%	67%	49%	18%	26%	2%	202%
	7ab 全部の回答でaかbを含む	32%	26%	74%	54%	12%	18%	2%	218%
	7Nab 全部の回答でaとbを含まない	12%	17%	57%	43%	10%	25%	1%	166%
	7ce 全体の回答でcかeを含む	21%	34%	59%	48%	12%	24%	2%	200%
	7Nce 全体の回答でcとeを含まない	12%	15%	58%	43%	10%	25%	7%	169%

- ・「7a:文を読むこと」が苦手な人には、親が「[4]①c:文書の内容の説明・確認」のサポートをしている割合が高い。
- ・「7b:文書を読むこと」が苦手な人には、親が「[4]①c:文書の内容の説明・確認」「[4]①d:提出期限などの文書の管理」のサポートをしている割合が高い。
- ・「7i:読み書きに時間が掛かること」に困っている人は、親が「[4]①c:文書の内容の説明・確認」のサポートをしている割合が高い。
- ・本人が「7a:字を読むこと」「7b:文章を読むこと」が一番苦手だと思っている場合(7Nab)でも、親が「[4]①c:文書の内容の説明・確認」「[4]①d:提出期限などの文書の管理」のサポートをしている割合が高い。
- ・本人が「7c:字が手書きすること」「7e:文章を手書きすること」が一番苦手だと思っている場合(7Nce)でも、親が「[4]①c:文書の内容の説明・確認」「[4]①d:提出期限などの文書の管理」のサポートをしている割合が高い。

	文書の内容の把握について、ご家族等がしているサポート
[4]①a	文書の代読
[4]①b	文書の代筆
[4]①c	文書の内容の説明・確認
[4]①d	提出期限など文書の管理
[4]①e	IT 機器などの使い方の説明
[4]①f	全くサポートしていない
[4]①0	未回答

表3-1-4-3-1 「一番苦手なこと」と「本人が利用できるようになって欲しいサポート」

		将来的に本人が利用できるようになって欲しいサポート										計	実数
		[4]③a	[4]③b	[4]③c	[4]③d	[4]③e	[4]③f	[4]③g	[4]③h	[4]③i	[4]③0		
苦手なこと	7a	0	1	0	0	5	3	1	0	1	0	11	7
	7b	0	0	0	0	6	5	3	0	0	0	14	6
	7c	11	2	4	16	26	13	9	4	3	2	90	34
	7d	7	5	6	4	80	40	22	10	5	6	185	97
	7e	4	2	3	7	24	15	5	3	1	1	65	31
	7f	4	2	3	12	48	32	14	8	7	4	134	67
	7g	9	5	5	11	36	21	15	8	4	2	116	53
	7h	0	1	1	2	22	11	6	4	0	1	48	27
	7i	1	1	1	2	9	6	7	4	0	0	31	10
	7j	2	0	1	3	14	9	4	2	3	0	38	22
	7k	1	0	1	6	60	33	20	0	4	3	128	77
	7l	5	3	4	7	53	35	19	9	4	0	139	67
	7m	0	1	0	3	12	7	4	1	3	0	31	16
	7n	1	1	3	2	14	5	3	2	1	2	34	17
	7o	4	0	0	5	19	8	10	4	7	1	58	30
	7p	7	1	3	7	43	18	16	6	8	4	113	62
	7q	1	1	1	1	4	2	3	1	2	0	16	6
	7r	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	7s	1	0	1	3	13	9	3	3	1	1	35	17
	7t	0	0	0	2	14	6	4	1	4	1	32	20
	70	0	1	1	1	7	2	4	1	1	1	19	9
	7W	14	6	9	17	132	66	45	16	16	12	333	180
	7Wab	3	3	5	3	25	20	10	5	3	2	79	37
	7Wce	6	4	7	11	44	24	19	11	2	3	131	57
	7ab	3	4	5	3	36	28	14	5	4	2	104	50
	7Nab	69	29	42	108	605	318	203	82	71	40	1567	806
	7ce	21	8	14	34	94	52	33	18	6	6	286	122
	7Nce	51	25	33	77	547	294	184	69	69	36	1385	734

	将来的に本人が利用できるようになって欲しいサポート
[4]③a	パソコンでの文字入力
[4]③b	読み上げソフトの利用
[4]③c	音声入力ソフトの利用
[4]③d	紙の書類にパソコンで入力できるソフトの利用
[4]③e	安心して気軽に相談できる窓口
[4]③f	内容の説明や代読・代筆などをしてくれる日常生活上の支援者
[4]③g	支援機器やサービスの情報提供
[4]③h	動画や音声で伝えてもらえるソフトの導入
[4]③i	特にない
[4]③0	未回答

表3-1-4-3-2

「一番苦手なこと」基準の

「本人が利用できるようになって欲しいサポート」比率

		将来的に本人が利用できるようになって欲しいサポート										計
		[4]③a	[4]③b	[4]③c	[4]③d	[4]③e	[4]③f	[4]③g	[4]③h	[4]③i	[4]③o	
苦手なこと	7a 字を読むこと	0%	14%	0%	0%	71%	43%	14%	0%	14%	0%	157%
	7b 文書を読むこと	0%	0%	0%	0%	100%	83%	50%	0%	0%	0%	233%
	7c 字を手書きすること	32%	6%	12%	47%	76%	38%	26%	12%	9%	6%	265%
	7d 人と話すこと	7%	5%	6%	4%	82%	41%	23%	10%	5%	6%	191%
	7e 文章を手書きすること	13%	6%	10%	23%	77%	48%	16%	10%	3%	3%	210%
	7f 説明すること	6%	3%	4%	18%	72%	48%	21%	12%	10%	6%	200%
	7g 計算すること	17%	9%	9%	21%	68%	40%	28%	15%	8%	4%	219%
	7h 金銭管理	0%	4%	4%	7%	81%	41%	22%	15%	0%	4%	178%
	7i 読み書きが遅い	10%	10%	10%	20%	90%	60%	70%	40%	0%	0%	310%
	7j 人の話を聞くこと	9%	0%	5%	14%	64%	41%	18%	9%	14%	0%	173%
	7k わかりやすく話すこと	1%	0%	1%	8%	78%	43%	26%	0%	5%	4%	166%
	7l 内容を推測すること	7%	4%	6%	10%	79%	52%	28%	13%	6%	0%	207%
	7m 落ち着いて取り組むこと	0%	6%	0%	19%	75%	44%	25%	6%	19%	0%	194%
	7n 細かい手作業	6%	6%	18%	12%	82%	29%	18%	12%	6%	12%	200%
	7o 手早い作業	13%	0%	0%	17%	63%	27%	33%	13%	23%	3%	193%
	7p 整理整頓	11%	2%	5%	11%	69%	29%	26%	10%	13%	6%	182%
	7q 公共の場で静かに	17%	17%	17%	17%	67%	33%	50%	17%	33%	0%	267%
	7r 道具や用具を使うこと	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%
	7s その他	6%	0%	6%	18%	76%	53%	18%	18%	6%	6%	206%
	7t 特になし	0%	0%	0%	10%	70%	30%	20%	5%	20%	5%	160%
	7o 未回答	0%	11%	11%	11%	78%	22%	44%	11%	11%	11%	211%
	7W 複数回答	8%	3%	5%	9%	73%	37%	25%	9%	9%	7%	185%
	7Wab 複数回答でaかb含	8%	8%	14%	8%	68%	54%	27%	14%	8%	5%	214%
	7Wce 複数回答でcかe含	11%	7%	12%	19%	77%	42%	33%	19%	4%	5%	230%
	7ab 全部の回答でaかb含	6%	8%	10%	6%	72%	56%	28%	10%	8%	4%	208%
	7Nab 全体の回答aとb含ま	9%	4%	5%	13%	75%	39%	25%	10%	9%	5%	194%
	7ce 全体の回答でcかe含	17%	7%	11%	28%	77%	43%	27%	15%	5%	5%	234%
	7Nce 全体の回答cとe含ま	7%	3%	4%	10%	75%	40%	25%	9%	9%	5%	189%

- ・「7a:字を読むこと」が苦手な人には、親が「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」のサポートが欲しいと思っている割合が高い。
- ・「7b:文書を読むこと」が苦手な人には、親が「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」「[4]③f:内容の説明や代読・代筆などをしてくれる日常生活上の支援者」のサポートが欲しいと思っている割合が高い。
- ・「7c:字を手書きすること」が苦手な人には、親が「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」のサポートが欲しいと思っている割合が高い。
- ・「7e:文章を手書きすること」が苦手な人には、親が「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」のサポートが欲しいと思っている割合が高い。
- ・「7i:読み書きに時間が掛かる」ことに困っている人には、親が「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」「[4]③f:内容の説明や代読・代筆などをしてくれる日常生活上の支援者」「[4]③g:支援機器やサービスの情報提供」のサポートが欲しいと思っている割合が高い。
- ・本人が「7a:字を読むこと」「7b:文章を読むこと」が一番苦手だと思っていない場合(7Nab)でも、親は「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」のサポートが欲しいと思っている割合が高い。
- ・本人が「7c:字を手書きすること」「7e:文章を手書きすること」が一番苦手だと思っていない場合(7Nce)でも、親は「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」のサポートが欲しいと思っている割合が高い。

表3-1-4-4-1 「一番苦手なこと」と「サポート無しの心配」

		家族のサポートが無くなった場合、心配なこと										計	実数
		[4]④a	[4]④b	[4]④c	[4]④d	[4]④e	[4]④f	[4]④g	[4]④h	[4]④i	[4]④0		
苦 手 な こ と	7a	4	2	5	5	2	3	2	1	0	0	24	7
	7b	3	1	4	5	3	1	2	0	0	0	19	6
	7c	18	10	24	22	12	8	18	2	4	0	118	34
	7d	64	21	73	68	33	15	59	1	12	3	349	97
	7e	14	5	26	17	4	4	20	0	1	0	91	31
	7f	44	13	51	42	19	16	51	5	3	3	247	67
	7g	34	14	41	35	21	21	33	3	4	1	207	53
	7h	20	7	21	22	11	6	18	1	1	0	107	27
	7i	6	3	9	7	3	0	7	0	3	0	38	10
	7j	18	5	17	15	6	6	19	1	2	0	89	22
	7k	47	14	61	48	18	16	52	3	7	3	269	77
	7l	49	19	46	44	24	13	47	5	4	1	252	67
	7m	8	2	12	7	2	2	8	2	1	0	44	16
	7n	8	3	14	10	2	3	8	1	1	0	50	17
	7o	21	3	21	11	8	3	19	3	4	0	93	30
	7p	32	13	36	31	14	16	34	9	7	5	197	62
	7q	4	1	3	3	1	3	4	1	0	0	20	6
	7r	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	5	1
	7s	13	5	14	11	5	6	11	2	1	0	68	17
	7t	10	5	10	10	6	3	11	3	1	1	60	20
	70	5	0	4	4	3	2	7	0	0	1	26	9
	7W	109	33	135	108	49	46	122	8	16	8	634	180
	7Wab	31	16	31	30	19	18	29	0	1	1	176	37
	7Wce	32	15	43	35	17	24	40	1	4	2	213	57
	7ab	38	19	40	40	24	22	33	1	1	1	219	50
	7Nab	494	160	588	486	223	172	519	50	71	25	2788	806
	7ce	64	30	93	74	33	36	78	3	9	2	422	122
	7Nce	468	149	535	452	214	158	474	48	63	24	2585	734

	家族のサポートが無くなった場合、心配なこと
[4]④a	一人では契約(アパートやスマホなど)ができない
[4]④b	一人では医療機関で問診票などが書けない
[4]④c	家族が入院した時など医療機関や保険会社に提出する書類作成を任せられない
[4]④d	手帳の更新など行政関係書類が一人では処理できない
[4]④e	一人では金融機関の利用ができない
[4]④f	商品や製品の使い方など説明書を読まないで、自分勝手に操作する
[4]④g	本人が内容を理解していない契約による損失や多重債務を負う
[4]④h	特になし
[4]④i	その他
[4]④0	未回答

表3-1-4-4-2 「一番苦手なこと」基準の「サポート無しの心配」比率

		家族のサポートが無くなった場合、心配なこと										計
		[4]④a	[4]④b	[4]④c	[4]④d	[4]④e	[4]④f	[4]④g	[4]④h	[4]④i	[4]④0	
苦手なこと	7a 字を読むこと	57%	29%	71%	71%	29%	43%	29%	14%	0%	0%	343%
	7b 文書を読むこと	50%	17%	67%	83%	50%	17%	33%	0%	0%	0%	317%
	7c 字を手書きすること	53%	29%	71%	65%	35%	24%	53%	6%	12%	0%	347%
	7d 人と話すこと	66%	22%	75%	70%	34%	15%	61%	1%	12%	3%	360%
	7e 文章を手書きすること	45%	16%	84%	55%	13%	13%	65%	0%	3%	0%	294%
	7f 説明すること	66%	19%	76%	63%	28%	24%	76%	7%	4%	4%	369%
	7g 計算すること	64%	26%	77%	66%	40%	40%	62%	6%	8%	2%	391%
	7h 金銭管理	74%	26%	78%	81%	41%	22%	67%	4%	4%	0%	396%
	7i 読み書きが遅い	60%	30%	90%	70%	30%	0%	70%	0%	30%	0%	380%
	7j 人の話を聞くこと	82%	23%	77%	68%	27%	27%	86%	5%	9%	0%	405%
	7k わかりやすく話すこと	61%	18%	79%	62%	23%	21%	68%	4%	9%	4%	349%
	7l 内容を推測すること	73%	28%	69%	66%	36%	19%	70%	7%	6%	1%	376%
	7m 落ち着いて取り組むこと	50%	13%	75%	44%	13%	13%	50%	13%	6%	0%	275%
	7n 細かい手作業	47%	18%	82%	59%	12%	18%	47%	6%	6%	0%	294%
	7o 手早い作業	70%	10%	70%	37%	27%	10%	63%	10%	13%	0%	310%
	7p 整理整頓	52%	21%	58%	50%	23%	26%	55%	15%	11%	8%	318%
	7q 公共の場で静かに	67%	17%	50%	50%	17%	50%	67%	17%	0%	0%	333%
	7r 道具や用具を使うこと	100%	0%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	500%
	7s その他	76%	29%	82%	65%	29%	35%	65%	12%	6%	0%	400%
	7t 特になし	50%	25%	50%	50%	30%	15%	55%	15%	5%	5%	300%
	70 未回答	56%	0%	44%	44%	33%	22%	78%	0%	0%	11%	289%
	7W 複数回答	61%	18%	75%	60%	27%	26%	68%	4%	9%	4%	352%
	7Wab 複数回答でaかb含	84%	43%	84%	81%	51%	49%	78%	0%	3%	3%	476%
	7Wce 複数回答でcかe含	56%	26%	75%	61%	30%	42%	70%	2%	7%	4%	374%
	7ab 全部の回答でaかb含	76%	38%	80%	80%	48%	44%	66%	2%	2%	2%	438%
	7Nab 全体の回答aとb含ま	61%	20%	73%	60%	28%	21%	64%	6%	9%	3%	346%
	7ce 全体の回答でcかe含	52%	25%	76%	61%	27%	30%	64%	2%	7%	2%	346%
	7Nce 全体の回答cとe含ま	64%	20%	73%	62%	29%	22%	65%	7%	9%	3%	352%

- ・「7a:字を読むこと」「7b:文章を読むこと」「7c:字を手書きすること」が苦手な人には、親が「[4]④c:家族が入院した時など医療機関や保険会社に提出する書類作成を任せられない」「[4]④d:手帳の更新など行政関係書類が一人では処理できない」ことを心配している割合が高い。
- ・「7e:文章を手書きすること」が苦手な人には、親が「[4]④c:家族が入院した時など医療機関や保険会社に提出する書類作成を任せられない」「[4]④g:本人が内容を理解していない契約による損失や多重債務を負う」ことを心配している割合が高い。
- ・「7i:読み書きに時間が掛かる」ことに困っている人には、親が「[4]④c:家族が入院した時など医療機関や保険会社に提出する書類作成を任せられない」「[4]④d:手帳の更新など行政関係書類が一人では処理できない」「[4]④g:本人が内容を理解していない契約による損失や多重債務を負う」ことを心配している割合が高い。
- ・本人が「7a:字を読むこと」「7b:文章を読むこと」が一番苦手だと思っていない場合(7Nab)でも、親が「[4]④c:家族が入院した時など医療機関や保険会社に提出する書類作成を任せられない」「[4]④d:手帳の更新など行政関係書類が一人では処理できない」「[4]④g:本人が内容を理解していない契約による損失や多重債務を負う」ことを心配している割合が高い。
- ・本人が「7c:字を手書きすること」「7e:文章を手書きすること」が一番苦手だと思っていない場合(7Nce)でも、親が「[4]④c:家族が入院した時など医療機関や保険会社に提出する書類作成を任せられない」「[4]④d:手帳の更新など行政関係書類が一人では処理できない」「[4]④g:本人が内容を理解していない契約による損失や多重債務を負う」ことを心配している割合が高い。

第2章 ヒアリング調査

1. 発達障害者本人からのヒアリング調査

(1) 本調査における本人ヒアリングの目的

本件事業のアンケート調査は、NPO法人全国LD親の会加盟の各会はじめ、発達障害児・者本人あるいは親や家族からなる当事者団体の会員を中心におこなった。会に所属していない発達障害のある人にもアンケート協力を依頼したが、アンケート回答の割合は、親の会会員とその子が圧倒的に多い。

そのため、ヒアリング調査は、親の会の活動等に親が関わっていない発達障害のある人を中心に、「読み書き」について、学齢期の状況と現在の状況を聞き取りし、いろいろな社会的立場における「読み書き困難」の現状を調査することにした。

(2) 本人ヒアリングの対象選定について

アンケート回答者の年齢は、20才代・30才代が多いため、40才代以降の「読み書き困難」がある人にも協力依頼した。また、おとなになってから「読み書きが苦手という障害があることを知った」というケースも加え、「発達障害に関する団体や自助グループに参加している人・全く参加していない人」、「学齢期に何かしらの支援を受けたことがある人・全くない人」といったことに偏りがないようにヒアリング対象を選んだ。

トゥレット症候群には、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、等との併存がみられる。また、チックがあるため「読み書きに集中できない」「読み書きに時間がかかる」「字がうまく書けない」といったトゥレット症候群特有の「読み書き困難」の状態があることは、あまり知られていないため、本件のヒアリングに加えることにした。

(3) 調査方法

初めに、本調査事業の目的、アンケートにより収集している内容等を説明した後、「読み書き」を中心に、学齢期や現在の状況についてヒアリングした。調査は、聞き取り側は2名でおこない、回答者側も希望があれば親など関係者が同席しておこなった。ヒアリングの時間はそれぞれ約90分であった。

ヒアリング終了後、内容をデータ化し、再度ヒアリング対象者に対して確認を依頼し、データの修正を行った。またその際に不明な点等についても補足を行った。

(4) 内容

(ア) SR氏	男性・19歳・関東地方出身	ヒアリング日：2018年12月8日
	診断名：トゥレット症候群	
	大学心理学部1年在籍中	
	将来は自らの経験を活かし、心理士になりたいと考えている。	

現状：困っていること

・現在、課題は読字と書字の両方にある。トゥレット症候群のためチックがあり、体を思い通りに動かすことができない。

・大学内では病気のことを説明しているためまだましだが、社会に出ているときに特に困る。たとえば、レストラン等に行ったとき、チックの発作が出やすい。すると、メニューなどを読むのが難しくなる、音声チックが出れば店員から「ほかのお客様に迷惑」と静かにするよう注意を受ける（だから、事前に説明してから入店したり着席したりするようにしている）。

- ・アルバイト先で困るのは、書類の記入時。文字を書こうとすると発作が出て、手が思うように動かなくなり、ビーンと線を書いてしまったりする。
- ・派遣の仕事に登録に行った時も書類を書くのが厳しかった。ボールペンで書くように指示され、間違えられないと思うと、なおさら発作が出て書けなくなってしまう。読字の点からいうと、注意事項を読むのが難しい。読んでいるときは発作が出ないようにしようといつも注意集中するのだが、すると何が書いてあるのか理解しづらくなってしまう。字面だけ追っても意味が入らず、意味がわからないと理解につながらず、結局何を読んでいいのかわからない。
- ・一時、周りに変な目で見られてもいいから病気を表に出して理解してもらおうと行動したことがあった。しかし、トゥレット症候群の発作は見た目が変わるのでやばい人と思われ、相手を不快にさせてしまう。普通ではない感じに相手も戸惑ってしまうのがわかる。
- ・行政機関や銀行、病院などでも読字書字に困る。問診票を書くのが大変、細かい説明文を読むのがしんどい等で、代筆してくれる人がいればいいのだが、そういう人がいないところもまだまだたくさんあり、そういうときは途方に暮れる。それから、役所や銀行、病院などは未だに紙ベースの書類が多く、PCやスマホの音声入力代筆機能が使えないのも困る。

書字について

- ・字の想起ができないから書字が難しいわけではなく、書こうとすると手がバーンと不随意に動いてしまい、安定して書くことができない。ちょっとした手先の動きができず、指先を細かく操作することはかなり苦手。そもそも協応動作がよくないので、純粋に細かい字を書くのがとても難しい。常に震える手を抑えながら書いているので力も出ない。そのうえ、チック症状がいつ起こるかは自分では予測できない。よって、一生懸命、注意深く書いたとしてもとても汚い字になり、友人たちからは「(Sの文字は)ヒエログリフ」と呼ばれるほど。
- ・大学でも安定してノートを取ることができないので、授業について行くことが厳しい。それでも頑張って書いているが、問題はメモを取れたとしてもスピードについて行くことができないので書く内容が中途半端であること。なにより自分のメモの字がぐちゃぐちゃであるため、後から読めないことがよくあることだ。
- ・大学に関しては、入学が決まった段階で父親が大学側に赴き、どのような配慮をしたらいいか、大学事務局、教授陣と打合せをした。その結果、授業は手書きの代わりにパソコンを使ってのノートテイキングをしてもいいこと、また、授業の録音もしていいことなどが認められた。しかし、タイピングで打ち込むこと自体、トゥレットの自分には難しい。手が不随意に動いてしまうため、思うように正確にタイピングができないためだ。また録音してもいいということだが、そのためには教授の声が届く前方に座らなければならない。しかし、そうすると、自分には音声チックもあるため、まわりの目が気になってしまう。周囲のことを考えるとますますストレスがかかって不安になり、余計にチックが出やすくなってしまう。結局、後ろの席に座るしかなく、そうすると録音機能は使えないということになる。
- ・とはいえ、メモは取らなければならないしレポートなども書かなければならない。自分の場合、親指を使うだけならなんとかできるので、スマホに親指でメモを取ったりレポートを書いたりしている。出力する必要があるときは、それをPCに転送し、パソコン上でワードに貼り付けて体裁を整えている。
- ・やっかいなのは、たとえ親指入力をするにしても長続きしないこと。持って1時間だ。素早く正確に打ち込むためには注意集中を要し、神経を使う。そうすると、ストレスがかかり、反動で発作が出やすくなる。そういうときは、不随意運動で顔を殴ったり壁を殴ったりしてしまう。それが辛い。
- ・大学以外で困るのは、一般社会に出てから。たとえば、先日、派遣の登録に行ったとき書類を書かなければいけなかった。書類はその場で渡され、しかもボールペンで書くように指示された。失敗できないと思うと緊張し、発作が出やすくなってしまう。自分としてはせめて鉛筆で記入できるようになっているといいと思う。

未就学期のころ

- ・幼稚園のころはまだ診断されていなかった。幼稚園の最後の記憶は母親にひらがなの練習をさせられていたこと。ただ、そのころから椅子にじっと座っているのが苦痛ではあった。普通の子どもがじっとしているのに、自分はむずむずして立ちたくなってしまう。これはのちに病気の前駆衝動だとわかったが、当時は病気の自覚はなかった。

就学後

- ・小2の集会の時、何かおかしい、正常ではないという感覚があったが、当時は親に言えなかった。

- ・小3になって明確な症状が出始めた。歩いているときに、転ぶ動作を挟まないと歩けないようになった。バスケットボールをしていたのだが、当時は靴のサイズが合っていないのかと思っていた。コーチがおかしいと気づいた。そのころ、首のリンパ腺が腫れたこともあり、母がチックではないかと言った。それで小児科に行ったのだが「チックだから経過をみよう」と言われた。そのうちひどくなって、音声チックも出始めた。そのころ、亜急性リンパ舌炎になり1週間倒れた。その時の担当医がテストをしてくれてトゥレット症候群と診断された。
- ・このころまでは、読字も書字も問題なくできていた。小3、小4のころは家庭科の授業でやる料理や裁縫も好きだった。
- ・ところが小5のころ、裁縫をしているときにハサミで自分の手を切ったり、針を自分に刺したりしてしまい、手が血だらけになった。このころからどんどん症状が悪化していき、読み書きどころではなくなった。ただ、友達に恵まれていたので勉強はなんとかあった。今思っても、小5のころが一番ひどかったし、辛かった。小5の頃、セカンドオピニオンで薬をエビリファイに変えて少し落ち着けるようになった。このころから、この病気は治らないのでどうすればいいか考えるようになった。小6では前向きに考えるように自分の考え方を変えた。気持ちが変わると症状もよくなった。
- ・中学1年1学期に父親の仕事の関係でアメリカに引っ越し、現地校に通った。不思議なのだが、アメリカにいたときは病気がすごくよくなった。自分の病気について説明していたが、それがほとんど違和感を持たれることはなく、個人を尊重してもらえた気がしている。自分の病気について変な目で見える人もいなかったし、攻撃されることもなかった。病気が自分にとって不利益にならなかった環境がとてもよかった。だが、アメリカにいても、ストレスがかかると発作が出ていた(レストランに行ったときなど)。
- ・中3で帰国し、元いた中学校に戻った。生徒は知っている人たちだったが、すでに受験体制に入っていて居場所がなかった。このころはもう書くことはできなくなっていた。先生は自分の病気のことを知っていたが、すぐに板書を消してしまうので書き写す時間がなかった。結局、ノートを写させてもらいながら対処した。テストは別室で受けさせてもらっていた。ページをめくれないことが学業に響くのは前述したとおりだが、国語だけでなく数学の文章問題なども、読んでもわからなくなったりしていた。勉強も病気も最悪な状況に戻った。
- ・高校受験については配慮してくれる学校を探した。進路相談では無理だと言われたが、別室受験もできた。時間も1.3倍にしてもらえ、全力で我慢して小論文を書いたのを覚えている。全力集中するとそのあとのチック発作がひどくなるが、受験は3年に一度のことなので、その1日さえ耐えればなんとかなるという思いはあった。終わったあとは1か月ほど寝込んでしまった。
- ・大学は2学期制。1学期のテストは1週間、別室で受けさせてもらった。やはり大学はいろいろな意味でしんどく発作が出るので、疲れたらとにかく寝ている。
- ・そもそも病気を抑えること自体がストレス。発作が自由に出る環境だと勉強ははかどる。個室なら尚よく、周囲の目を気にせずに読み書きできるので、効果が上がりやすい。問題は家から出たら、なかなかそういう場面がないことだ。

結論

- ・トゥレット症候群のことがあまりに知られていない。発作が出るから読めない書けない、ということが知られていない。
- ・トゥレット症候群の当事者ですら、自分の病気のことをよく知らない人が多い。自分の場合はどうしたらいいか早くから模索してきたが、そのことすらできない人が多々いる。
- ・トゥレット症候群は人によって状態像があまりにも違い過ぎる。子どもの時に重くても長じて症状が出なくなる人もいれば、どんどん症状が重くなる人もいる。見た目が普通でも急に発作が出ると、(見た目が変わったり大きな声が出たりするため)相手を不快にさせてしまい、読み書きが難しくなったりする。いずれにしても読み書きは病気を原因とする二次的状況。まずは病気を知ってもらいたい。それから、代替機能の積極利用をもっと進めてほしいと思う。

現状

- ・平仮名・カタカナはOK
- ・30歳のときに、テレビでディスレクシアをカミングアウトした鳥取の井上智さんのドキュメンタリーを見て、自分に似ていると思った。自分の子どもが小学校にあがるときに、遺伝等があるなら対策をしなければと思い、それで検査を受けLDと言われた。現在、上の子は小学3年生、下の子は小学1年生で、二人とも通級に通っている。
- ・介護の現場はいまだに手書きで記録を作らなければならない。PC入力してそれを打ち出して貼り付けさせてほしいといっても認められない。
- ・介護の技術については、何をどうすべきか、だれに何が必要かなどを画像で覚えているので自信がある。また引継ぎなどの情報も、自分で必要事項をマークやサインなど記号化していて、その記号でメモを取るの間違いではない。ちょっとしたことは確かに忘れるが、自分が忘れるということが分かっているの、自分なりの工夫をして対応している。
- ・読み書きが苦手な分、昔からいろいろなことを考える子どもだった。前の文章から類推して書かれてあることを理解するなどしていた。このことは、行動を推測する力を養うことにもつながったと思う。今の仕事は介護福祉士だが、ご老人が次にどういう行動をとるか、自分は丁寧に細かく観察しているので推測でき、適切に対応できる。
- ・ところが、「字が書けない」というだけで、そういった自分の専門性にかかわる能力まで疑われてしまう。それが本当に悔しい。
- ・LDを隠して就職することも考えたが、入ってから苦労するのは目に見えているので就職する前に伝えたいと思っている。しかし、伝えると就労につながらず、なかなかうまくいかない。

書字について

- ・全般的に文字を書くのは苦手。
- ・子どものころは、ノートは文字では取れないが、絵と図柄で取って、それで理解していた。
- ・手書きをすることは難しいが、ネットゲームにはまったのでキーボードを打つことは早く、問題はない。ワープロを使えば試験も可能。頭に浮かんだ文章も打てる。漢字の変換ミスはあるが、間違いを指摘してもらえば対応可能。
- ・問題は自分が働きたいと思うエリアには、PCを認めず、手書きでなければダメだという福祉法人がまだまだ多いこと。利用者のこともちゃんと介護できるし労務管理もできるのに、報告書を手で書かなければいけないというだけで再就職できずにいることが悔しい。

読字について

- ・平仮名カタカナの読みはOK。
- ・偏と旁のある複雑な漢字はルビがないと難しい。

就学後

- ・小学校ではすぐに勉強に行き詰った。小学1～2年のころから「勉強はダメだ」と自分で考えた記憶がある。
- ・記憶にあるのは、漢字テストのときに「ドリルを見ていいから」と先生に言われたが、ドリルのどこを見たら正解がわかるのかがわからず、結局、答えが書けなかったこと。テストに出ている漢字を選び出すことはできても、ドリルのどこに書いてあるかがわからなければ、「見てもいい」といわれても意味がない。
- ・ひらがなはOKだったが、勉強ができなかったのも、親が家庭教師をつけてくれた。補習塾にも行った。漢字もできないので自主勉強をした。ただ、補習塾も家庭教師も実際に続けたのは1年くらいだったと思う。成果が出ないから辞めた。勉強より遊んでいる方が楽しかった。補習塾や家庭教師を辞めたことで、「もう自分は勉強しなくてもいいんだ」と理解したように思う。
- ・学校で困ったのはテスト問題文が読めないことだった。前の文章と後ろの文章で意味がつながらなかった。あとから考えたら推論はできていたはずなのだが、「推論はできる」と自覚したのは中学校に上

がってからだっと思う。

- ・小学3年ごろの記憶だが、偏と旁が出てきたころから漢字が全然わからなくなって、自分でも「こんなに勉強ができないのか」と思った。ところが、体育や美術、実験などのある理科は得意だった。見て写すことは写生など絵ならできたが、文字になると読点の位置や句点の位置、促音がわからず、小さい文字はどこで使ったらいいのかずっとわからず、いつも大変だった。
- ・ずっと自分は「バカだからできない」と思っていた。「ほかの人はなんであんなにできるのだろう、なんであれこれ覚えられるのだろう」と、とても不思議だった。親も自分はやる気がないからできないと思っていたと思う。ただ、勉強ができないことで叱られたことは一度もない。テストで零点をとっても叱られたことはなかった。親から責められなかったのは本当に助かった。
- ・自分でも意外だったのは運動がすごくできたこと。小学校のときから水泳を習い、高校からはボクシングをやった。社会人になってからはロードバイクをはじめ、トライアスロンもやっている。
- ・中学校では、授業は寝ているかさぼるかのどちらかだった。陸上部に1年だけ入ったが、すぐに帰宅部になり、カードゲームばかりやっていたように思う。
- ・ノートは文字では取れないが、絵と図柄で取って、それで理解していた。定期テストは答えがわかっていたとしても、そもそも問題文が読めないし、書くのもできないので点が取れなかった。だいたい30点ぐらい。それも記号問題で全部同じ記号にして当たった分が点になった感じだった。それでも理科は比較的理解できて100点を取ったこともある。数学も図形問題(展開図など)はわりとできた。ただ、国語と英語は全くわからなかった。
- ・高校は、中学校での勉強ができず、受験できるところは限られていた。絵を描くのが好きだったので興味のある専門科のある高校を受験したが落ちた。別の高校は面接で生年月日を聞かれた。ところが、誕生日は覚えていたが、生年を覚えておらず落ちた。
- ・最終的には別の県立高校に行った。すぐ上の、勉強ができる兄貴が、第一志望の高校に落ちて入学した学校だったので、自分としては身近な存在だったと思う。この高校は、周りも勉強ができなかったのも、自分ができなくてもさほど苦痛ではなかった。ノートを毎日写していた。ここでも部活はやらず帰宅部だったが、学校が自然に囲まれていたので帰宅部同士で自然のなかで遊んでいた。
- ・高校卒業後は専門学校に行き、介護福祉士の資格を取った。専門学校でも書字には困ったが、「新聞紙に大きい文字を書いてみて」と専門学校の先生が丁寧に教えてくれた。すると、漢字は覚えても、すぐに忘れてしまうことに改めて気づいた。記憶が持続しないのだ。それで、「自分はやはりやってもダメだ」と思うようになった。学校でのテストは落ちても追試があったのでなんとかなった。追試はお金を払えば受けられる仕組みだった。
- ・小学校に上がる前から専門学校まで、ずっと友達が多かった。読み書きは苦手勉強はできなかったが、先生も友達も助けてくれたので、実際にはそれほど生きづらさを感じることはなかった。

就労・社会参加後

- ・読み書きが苦手、記憶するのが苦手なで困るようになったのは20代になって社会福祉法人(老人施設)に就職してから。最初のころは若いから仕方がないと大目に見てもらえた。幸い、自分は卑屈な性格ではないし、福祉士としての仕事はできていたと思う。問題は記録業務だった。記録業務がすべて手書きでなければならなかったからだ。
- ・そのうちリーダー業務をするようになり、利用者の記録だけでなく周囲の人間の配置を割り振るなど、それまで以上に記録を残さなければならず、困ることが増えた。
- ・パソコンに打ち込むことはできても、この施設ではすべての記録は手書きでやることが求められた。自分が働きたいエリアにある社会福祉法人は電子化されているところは少ない。しかたがないので電子辞書を使い、いちいち字を調べて手で写していた。だから、とても時間がかかるのだが、今度は記録するスピードが遅いとしょっちゅう怒られた。
- ・この社福は最初契約社員だった。3か月で正社員になれなかったもので、4か月目に通所リハビリテーションに異動になった。そこは夜勤もあって結構ハードだったが、一番困ったのはTQC活動だった。毎月、テーマを決めて深掘りして、それをレポートにまとめて社内で発表する。書類がかかわるので自分にとってはとてもつらかった。
- ・それでも20代のころは「勉強していない自分が悪い」と思っていた。
- ・そのころ、井上さんをテレビで見て、自分も診断を受けてLDとわかった。それで、その社福をやめ、最初からLDであることを分かったうえで雇ってくれるところを探そうと思った。
- ・社福をやめてから、いくつか会社見学に行った。どこでも「記録はどうするのか。自分は書くのが苦手」

と訊ねると、「うちは電子化されていないので」と言われることがほとんど。面接も最初は感じがよくても、「自分はLDがあるんです」というと、結局受からない。

- ・介護の技術についてはシーンで覚えているので自信はある。また引継ぎなども自分でマークを作っているの、そのマークでメモを取るの、間違えたことはない。ちょっとしたことは確かに忘れるが、自分が忘れるということが分かっているの、自分なりの工夫をして対応している。あらゆる情報を視覚化して処理すると対応できる。
- ・それなのに、「字が書けない」というだけで仕事の能力まで疑われてしまうのは、本当に悔しい。
- ・銀行などでは代筆してもらうので、問題を感じたことはあまりない。
- ・車の免許を取るときも、文章から状況をイメージしたら正解を選ぶことができた。

結論

- ・もう少しLDのことを知ってほしい。
- ・LDは読み書きも苦手だが、ちょっとしたことを忘れることも知ってほしい。

(ウ) SS氏 男性・20歳・中国地方出身 ヒアリング日:2019年1月27日
診断名:広汎性発達障害・学習障害
生活訓練に在籍。3月から就労B型に入る。

現状

- ・基本は「読めるけど書けない」。
- ・書ける漢字もあるが書けない漢字もある。
- ・読字は何とかなるときもあるが、間違えて読んだりすることもある。
- ・記憶するのが難しい。
- ・書類を書くのが大変。書類はいつも携帯でデータや書きたい漢字を呼び出して、それを見ながら写す。
- ・バスに乗るのが大変。何番のバスにのって何番目で降りるのか値段はどうかがよくわからない。
- ・計算が苦手なので、パッとおつりを暗算することができない。消費税がかかわるとよくわからなくなる。数の概念はわかるが計算が苦手。

書字について

- ・平仮名カタカナは書けるが、カタカナは想起が遅い。たとえば「オ」と「ヲ」を間違えたりする。似た形の文字だけを間違えるというより、音が似ている字を間違えることも。文章を書くときは、今もどこで促音を入れたらいいかわからない。

読字について

- ・読めるものもあるが、読むのが苦手な漢字も多い。

未就学期のころ（母親談）

- ・自由保育の保育園に通った。机の上を走り回ってもいいし、枯れ葉に埋もれたりしてもいい。息子には合っていたので楽しんで通っていたように思う。LDということはあまり問題にならなかった。
- ・本の読み聞かせなどをされるときはじっとできないこともあったが、興味があれば何でも突進していく子だったので親としてもさほど気にはならなかった。
- ・育てにくい子どもだということではなかった。

就学後

- ・平仮名の読み書きは問題なかったが、「れ」と「わ」はうまく書けなかった。小学校2年生位まではドリルは何とかできたが、それ以降は、書字は難しかった。
- ・カタカナは直線ばかりで全く覚えられなかった。当時「虫キング」が流行っていて、そのトレーディング

カードを使い、そこに書かれてある「ヘラクレスオオカブト」などと覚えていった。好きなことをやらせて覚えさせるということだったのかもしれない。

- ・ただ、形をとってバランスよい字を書くのは難しかった。
- ・罫線がなく自由に書くときは(文字の)線がぐにゃっと曲がってしまい変な字になってしまう。
- ・マンガを読んでいたので、文字は覚えていて読むことには問題はなかった。自分の好きなキャラの名前などに漢字が入っているとそれで覚えられた。
- ・一方、興味がなかったり、難しい文字(偏と旁がある漢字など)は覚えられていないので読めない。最近では携帯を使って調べて読んでいます。
- ・根本的な漢字の作り(草冠だとか言偏だとか)がわかっていない。ただ、目によくふれる漢字や、興味のある内容に関する漢字が読める。
- ・もっとも漢字も単体だとわかるが、熟語になるとわからなくなる。
- ・小学1年生のときから、音読するときは単語が区切れるところで／をいれてもらっていた。自分には加配の先生はいなかったが、ほかの子についていた加配の先生がやってくれたりした。
- ・小学4年生のとき、担任が親に「彼の読み書きの難しさはかなり大変。児童相談所にいったほうがいい」と言った(母親談「先生曰く、児童相談所と言ったのは水戸黄門の印籠のように医者による診断がいる、ということだったと思う」)。
- ・小学4年生6月に児童相談所に行った。そこで教科書は読めるし意味はなんとか分かるが書字がしんどいこと、九九が全くダメだったことなどを話した。
- ・このとき衝動性や不注意があるということで、児童相談所から同一建物内の療育センターへ受診となる。この時コンサータを飲み始めた。
- ・その後、小学4年生のときに支援員が入ったが時間数の制限があった。難しいところを支援してくれた。わからないところを別室で個別に教えてくれたりもした。
- ・板書を写すのは難しかった。書き終わる前に黒板はいつも消されていた。特に漢字を書き写すのはいつもとても難しい。そのためノートはいつも未完成だった。ノートが未完成なので当然肝心なことは覚えておらず、テストはいつも点数が悪かった。
- ・聞いて書く、という聴写も難しい。
- ・そもそも聴いたことを記憶するのが難しい。話している内容が興味のあるものであっても覚えられない。過去に好きなカードゲームの発売日時を聞いていたのに、2日後に聞きなおし、パッと言われてもわからず、結局、忘れてしまう。
- ・音楽を聴くことは好きだし、体育も好きだったが、絵を描くのは難しかった。
- ・小学5年生のとき、「俺はできないから、とびおりに死ぬ」と言ったりしており、書字の難しさにより自己肯定感がとても低くなり、学校生活で勉強に関しては楽しいことがほとんどなかった。
- ・6年生のときの担任に、「小5のときのことがあったので中学は支援学級に行った方がいいのでは」と言われた。
- ・中学校は市内の公立の支援学級に入った。進学を機に療育センターから国立大子どもの心科へ転院。担任の先生(女性)はとても熱心で、毎月わざわざ年休を取って主治医のところまで行って情報収集・情報共有してくれた。学習障害についての情報がないと思えば、鳥取の井上智さんのところに会いに行こうと誘ってくれたりする先生だった。
- ・中学では、担任の先生が早くからDAISY教科書(教科書を音訳したもの)化したものを使わせてくれた。個人のPCかタブレットを使わせてほしいといったら担任の先生はOKだったのに学校がダメだといったので、先生は御自身の個人のPCに音声化アプリや学習ソフトなどを入れて自分に使わせてくれた。PC、タブレットは支援級にいる時のみの対応で、テストは学校側の読み上げやマッチングでの許可が出ず紙のテストだった。
- ・高校は通信制の高校に入った。面接で「なぜ高校に行きたいのか」と聞かれ「いろんなことを体験したい」と答えたのを覚えている。
- ・高校の勉強は大変だったが、楽しく過ごせた。授業などではPCを使ったが、入力が追い付かなかった。ブラインドタッチできなかったことも響いたと思う。
- ・月曜から金曜のうち、週に2回学校に行き、それ以外はフリースクールに通った。毎日どこかには行っていたが、季節や体調によって行きにくいこともあった。
- ・学校に毎日通わなかったのは、通学すればするほど学費が高くなるから。勉強はフリースクールで集中的に勉強のフォローをしてもらっていて、生まれて初めて80点90点が取れるようになり本当に心から嬉しかった。部活動ではアニメ研究会に入った。ここではアニメを鑑賞したりみんなで踊ったりしていた。こういった活動のおかげで自信もついてきたと思う。

・通信制だが3年で卒業し生活訓練に通い、基本的生活習慣を正すことを目指した。

（母親談）

・小学4年生のとき早期療育が必要だと言われたが、学校ではそういった指導をしていなかった。親としては「どういうこと？ どこに行けばやってるわけ？」という気持ちだった。親としても何かしなければと思っても、何をどうしてあげたらいいのかわからなかった。ちなみにこれは10年前の政令指定都市のこと。
・うちの政令指定都市には何もないことがわかり、いろいろと探して住んでいる街からバスで40分くらいの放課後等デイサービスにつながった。息子は放課後一人で通わなければいけなかったので、バスに乗る練習をした。お金の計算や料金表の見方は分からなかったのでICカードを利用した。停留所はサインが出て読めないのも景色で覚えるようにさせた。夜は暗くなると景色が見えないので、アナウンスを覚えて降りるところに気付けるように指導した。

就労・社会参加後

・20歳になったので年金の手続きに行った。住所を書かなければいけない時、自分は携帯に登録しているプロフィールを写すのだが、文字を写しているというよりも同じ図形を書いている感じた。
・漢字があまり読めないのも書類を書くのが大変。説明を受けるが意味の理解が難しい事がある。書類はいつも携帯をみながら写す。

(エ) HM氏 男性・58歳・中国地方出身

ヒアリング日:2019年1月27日

診断名:発達障害

NPO法人理事長

平成18年に立ち上げた福祉事業。医療機関からの要請で幼児から青少年までのデイサービス等の支援を行っている。

現状

・書くことが難しい。
・PCが普通になったこの時代だからこそ、救われたところはたくさんある。
・発達障害そのものは、今ではあまり目立たなくなったような気がしている。

書字について

・行政の書類はできないが、フォローしてくれる人がいるので、そういう人たちに助けられている。
・NPO法人を経営しているが、利用者の支援計画などを作るときはPCに音声入力して文字化している。当法人のco-medicalスタッフが自分の音声入力した原稿を順序立てるなど整えてくれている。

読字について

・読むことはかろうじて何とかなっている(代読、PCやタブレット、スマホ等利用、写メはよく使う)。
・とはいっても、興味があれば必ず克服しようという気持ちも沸くが、そうでないと苦勞するのは変わらない。

未就学期のころ

・幼稚園のころから文字は書けなかった。「この子、どうしよう」が母の口癖だった。
・鏡文字をよく書いていた。「ぬ」はいつも逆さまになっていた。
・「きって」などの促音が苦手だった。
・うまく字が書けないことを心配した母が教材を買ってきてやらせようとしたので、反発して余計にやらなかった。

- ・一生懸命頑張って書いても、いつも赤ペンで直されて、それで字を見るのは益々しんどくなった。
- ・多動のエピソードも多い。怪我が多い、忘れ物の天才等。

就学後

- ・小学1～3年のときの担任が自分のことをよく見てくれていて、テストのときは問題数を減らしたり、教科書やテスト問題などを読むときは「行のところに下敷きをあて、スライドさせながら読め」とか「問題文は一文ずつ追ってやれ」など学習の方法を教えてくれた。今思えば、クラスには自分のような児童が4～5人いた。あきらめさせない方法を考えてくれる先生で、いろいろなことを教えてくれた方だった。
- ・読字書字が苦手な分、授業中、自分にいつも何らかの役割を持たせてくれていた。魚の解剖をするなら近所の川で魚を取ってこさせるなどだ。人の役に立つ意味や喜びを教えてくれたのはこの先生だったと思う。読字書字が苦手な自分が今あるのは、この先生がそういった土台を作ってくれたからという側面は大きいかもしれない。
- ・小学2年から3年のころにはひらがなやカタカナはなんとかできるようになった。ただ、漢字は学習のペースが速く、どんどん新しい文字が出てくる。火とか水など基本的な象形文字のときはなんとかだったが、偏と旁とが出てきた段階で混乱するようになった。
- ・カタカナも、一文字ずつならなんとかできるが、カタカナ言葉になって文字数が増えるとやはりしんどくなる。
- ・小学3年の前半からは算数も苦痛になった。
- ・小学3年のころには音読は本当につらかった。音読が当たると、どうしても詰まってしまう。事前に練習していかないと対応するのは難しかった。
- ・小学3年のころには「自分はまわりと違う」と気づいていた。自分は知的障害ではないかと思うこともあった。体で表現するとか運動能力は高く、球技で負けたことはないし努力も厭わない。それなのにみんなができる勉強があまりにもできず、「自分は人の数倍努力しても身につかない、できない子なんだ」と実感するようになった。
- ・一方、計算も計算尺を使えばできるし、モノを作るのも得意。サポートがあれば自分は人並みにできることはおぼろげながら気づいていた。
- ・勉強について自己肯定感はなかった
- ・中学のころからソフトテニス(軟式テニス)を始めた。テニスを居場所にしてはいたが、勉強は全然ダメで、テストでは点は取れず、服装も乱れるようになった。父が怖かったので、本物のワルになる勇氣はなかった。
- ・中学に入ってから、勉強ではフォローはなかったが、先生方が臨機応変に対応してくれた。教師との交流があったから、3年間何とか耐えたと思っている
- ・高校は私立高校に入った。仲のいい子は進学校に通ったが、自分は彼らとは違う方法で人生を表現しようと思った。入学した高校はテニスの強いところだった。面接で切実に、テニスを頑張ってきたことを主張した。
- ・高校に入ってみたら、テニス部は特待生ばかりで体力的にも技術的にもついていけなかった。それでも頑張って1年の秋レギュラーになり、インターハイにも出た。
- ・365日練習ばかりしていた。でも、この部活のおかげで上下関係を知り、それは社会人になっても役に立った。
- ・テニスのおかげで強豪校のN大に呼ばれた。大学ではインターカレッジ杯で優勝して、団体日本一になった。ただ、自分は3年の秋、マネジャーをやれと言われた。4年のときのインターハイはマネジャーとして参加した。
- ・読み書きが苦手なのは変わらないが、部活での選手経験、マネジャー経験は自分にとってのちに生きて行くうえでとても勉強になった。4年のときは部費が2000万円くらいあった。その予算を使って運営していた。お金をどう使うか、部をどう経営していくなどを学び、貴重な体験をさせてもらった。ここでの成功体験があるので我慢したり努力したり、人に頼んだりすることができるようになったと思う。
- ・書字についても、実はこの部活経験がトレーニングになった。部活ではOB等に通知や手紙を書くことがよくあり、きれいに書かないといけなかった。きれいに書く方法などを先輩が丁寧に教えてくれた。
- ・大学時代はパソコンもワープロもなかったので書くのは苦労した。その後、携帯が出てきたので、徐々に書く仕事もなとかなるようになった。椅子にじっと座っていることが苦手だったこともあり、人の力を借りたりネットワークを使ったりする仕事をしたいと思った。

就労・社会参加後

- ・新卒で一般企業に就職してから6回転職した。
- ・大卒後初の仕事は自動車ディーラー。最初はよかったが、部品の調達の約束が守られないなどというようなことがあるとイラつき、上司とぶつかったりもした。対人関係での苦労が多く、自分を理解してもらえないことが続いた。
- ・最初に困ったことは、発注書が書けないことだった。文字を書くのがしんどいだけでなく、縦横の集計が合わない、行飛ばしがあるなどで苦労した。
- ・その後、独立して自分で商売を始めたが、早合点もするし、選択肢が持てない、多様性がない、論理的に咀嚼できないなどがあり、自律神経失調症になり、28歳でパニック障害、30歳前後で鬱になった。
- ・ディーラーのあとは金融関係の会社に入った。このときちょうど一時払いの養老保険の解約が続いたのだが、そのときは企画書の作成や顧客への説明が苦手な本気で苦労した。
- ・その後、まったく別系統の会社に転職した。ここにいたときは接待ばかりで、いつも帰宅は翌朝3時過ぎ。体がしんどかった。
- ・その後、気にかけてくださる方がいて食糧関係の会社に転職した。そこでは管理職として迎えられたので期待に応えようと労務管理をしたりOJTをやったりして7年働いた。ところが、その後、50人程度の会社で10数人リストラしろと言われて自分がその担当になった。これはやはりとてもきつくて、鬱になってしまい休職した。しかし、そのうち休んでいる自分がなんだかずるいのではないかと思い、結局辞めてしまった。
- ・その後、アルバイトとしてリフォームをやったり、ビルの掃除をしたりなど夜の仕事中心の生活を送った。
- ・その次にリサイクルの仕事をした。口頭で指示するなどして対応した。ホワイトカラーの仕事は自分に合うものが限られているように思うのと、やはり半分は自信がないから、どうしてもこういった体を使う仕事を選びがちだと思う。一から何かを生み出すよりも自分はメンテナンスをしたりリフォームしたりするなどして改良することが向いている。限られた時間のなかでマニアクな仕事をするのは得意だと思っている。
- ・40歳すぎたころ、妹から発達障害ということを知ってもらった。もともと自分はまわりとは違うと思っていたが、このときに「なるほど」と思った。発達障害のことを知ると、ショックだったこともあるが、的を射たことが多く、自分としてはこれが正解だと思った。そのときに、この「発達障害」をどのようにとらえていくかによって人生が変わると思い、自分探しをしてみようと思った。
- ・40歳から42歳までは専門家探しをした。LD学会に行ったり、思春期の専門外来の研究会に行ったりしてみた。こういうことは早く知った方が人生にはプラスに働くと思う。
- ・それで、自分が生きてきた意味はなんだろうと考え、学童期を終えた子どもたちへの支援をしようと思うようになった。自分が体験してきたことやさまざまなケースを通して学んだことも多く、少しずつ対応できるようになってきたことも背中を押したと思う。
- ・当初、場所をどうしようかと考えたのだが中小企業組合で働いていたときにお世話になった商工会議所の会長が事務所の2階を貸してくれた。それで交流していた小学校の先生方が夕方から参加してくれるなど個性的な塾のような場所になっていった。
- ・やがて、発達障害だけでなく愛着障害や自己愛性人格障害などさまざまな課題を持つ子どもも増えてきた。そのうち、大学院生としてかかわってくれた人たち（彼らの学びの場でもあった）が、卒業後も一緒にやりたいと言ってくれるようになった。
- ・今の仕事は法人経営なので他者を巻き込むことになる。法人化することは当初逡巡したが、人のためになりたい、生まれた意味を感じたいと思い、思い切ってスタートした。現在スタッフは正社員18名、パート35名でやっている。

結論

- ・企業で労務管理もやり、営業もやりと人脈だけは広がった。今は苦手なことはスタッフにお願いしてやってもらっている。発達障害があってもそうやってサポートしてくれる人と巡り合うことができれば何とかなると思っている。
- ・いろいろあったが、柔軟性など社会に出てから学ぶことも多々あった。行政対応もモデルになる人がいたり、一緒にやってくれる人がいたりして体験から学ぶことができた。
- ・書くのが苦手などの苦労が減ったわけではないが、対応策を学ぶことができた。

現状：困っていること

- ・27歳の今の段階で小学2年生レベルの漢字しか書けない。ひらがな・カタカナは問題なく書けるので、どうしても手書きを求められるときは、スマホで文字を一文字ずつ出して書いている。時間がないときはこちらで対応することが多い。
- ・書けるといっても、文字のバランスは悪い。太くなったり小さくなったりしていて、おかしい字になる。しかも、書くのにとっても時間がかかる。
- ・事務手続きは、まだまだ手書きをしなければならないことが多くて困る。公的機関でも手書きを要求される場面は多々ある。
- ・たとえば大学では授業や試験のときはPCを使うように大学側は全学生に求めているのに、なぜか就職用の資料は手書きで紙に記入したものを提出するように求められた。大学の就活調査の際も、手書きを求められた資料があったので代筆をお願いしたが断られた。それで、「書くのが苦手だ」といったら「それなら書かなくてもいい」と言われ、自分の情報はいらぬのかと思った。大学の調査でベトナムに行くとき、ビザの申請をするのもすべて手書きで困った。30分あれば書けるようなものに6時間もかかった（しかも、その際、ベトナムには発達障害の人はいないから何かあったらマレーシアに強制退去させると言われた！）
- ・就労支援センターやハローワークに登録するときも手書きを求められる。書字が苦手だといっても「きれいな字じゃなくてもいいから手書きで」と求められ、何か所も書かされた。障害があると言っているのになぜ手書きを求めるのか？

書字について

- ・書字はいまだに小学生レベル。名前と住所は特訓したので書ける。
- ・書けることは書けるが、スピードはとても遅い。携帯で1字ずつ調べてそれを1字ずつ写している。感覚的には書初めをやっているような感じ。「ノートに書く文字サイズの書初め」をする感覚だ。だから、10分書いたら30分休む。そうしないと体が持たない。
- ・読み書きに付随する疲労がとても大きい。
- ・問診票については、選択式だとなんとかなるが、自由設問はひらがなやカタカナなどを駆使している。書けないときは書いてもらうようにしている。
- ・基本はスマホ入力。PCやタブレットを使えるといってもキーボードをうつのがしんどいので、使えるときは音声入力にしている。読みには問題がないので漢字の誤変換は修正できる。しかし、PCやタブレットをうつのが大変でスマホの親指入力のほうが適している人もいるということを知らない人が多い。そのためか、PCでメモを取ることにについては理解があっても、スマホだと雰囲気的に憚られることがある。また、スマホでメモを取っていると他人に見られることもあり、そのしんどさもある。また、スマホ入力だとすぐに電源が切れてしまうのでモバイルバッテリーは必須。携帯充電2回分のバッテリーはできるだけ持ち歩いている。（障害特性で忘れてしまうことも多く困る）
- ・銀行等の手続きは書いてもらうなどして対応している。基本、サービス業のところは依頼すれば書いてくれる。
- ・書字で困ってはいるが、最近では困る場面は減ってきていると感じている。代筆に応じてくれる人が増えていると思う。

読字について

- ・困ったことはない。

未就学期のころ

- ・記憶はないが、母が書いた成育歴を見ると、「しゃ しゅ しょ が書けない」と書いてあった。

就学後

- ・小学生のときには大学生レベルのモノは読めた。
- ・小学4年生より前の記憶がない。
- ・読み書きが苦手だということをはっきり意識したのは中学生のとき。というのも中学になるまでは教科学習から離れていたから。
- ・小学5年生から養護学校に移った。そこでは板書は無理にすることはなく、ノートも、先生が用意してくれた穴埋め式プリントで対応してくれて、とても助かった。
- ・高卒後、特別支援学校専攻科に行っていたとき、東大先端研の「DO IT Japan」に関わり、そこで、学習障害ではなく目と手の協応の悪さからくる書字障害だと言われた。
- ・大学入試はDO IT Japanのおかげで、日本初のPC受験をした。
- ・大学はすべてPC対応。大学はすべての学生にPCを使うことを求めているので、わざわざPCを使わせてくれという必要もなかった。
- ・しかし、PCは使えるが、スマホ入力のほうが圧倒的に楽。卒論も、携帯のフリック入力(真ん中のキーを「あ」とすると、その右が「え」左が「い」上が「う」下が「お」という感じで入力していく方法)と予測変換を使って書き、パソコンに送ってワードに貼り付けて整えて、ダウンロードして提出した。
- ・英語は読みも綴りも苦手。文字列と意味がつかない。会話とか聞くのは問題がない。

母親の話：

- ・小学校は普通学級に入学。だが、書字ができないことや心疾患のこと、ADHD(最初は7歳でADHDと診断された)のことを何一つ理解されず、複数の教師から集団罰を受ける。当時、保護者が訴えても全く理解されず、対応もされなかった。息子は学校に行けても教室に入れない、そのうちに学校にも入れなくなった。それで小5のときに病弱の特別支援学校に転校させた。
- ・小1のころから、毎日2時間くらい書字の練習をさせていた。

就職・社会参加

- ・大学での研究を生かし、地元の障害者政策に関わりたいので公務員になりたいと考えている。今年は合理的配慮してもらって受けたが、落ちた。今年は体調があまりよくなかったのも、来年、再度挑戦したい。
- ・公務員以外はあまり考えていない。就職試験で合理的配慮してもらえないところは、入社できたとしてもそのあとで困るだろうと思っている

結論

- ・ハローワークや就労支援センターの登録時に、どうしても手で書かなければいけないところがあるのは理解しているが、単一の契約なら自筆で記入するのは一か所だけなど、工夫をしてほしい。理想は電子サインでもいいようになること。
- ・PCやタブレットだけが入力方法ではない。スマホの入力のほうが自分の思考のスピードに合うという人もいることを知ってほしい。

仕事は内職のようなもの。箱折りとかホームセンターのねじ類を1つつ詰めるなど。

現状：困っていること

- ・書くことが難しい。字が汚い。筆圧が強く、きれいな字が書けない。シャープペンでも芯が0.5だとすぐに折ってしまう。
- ・PCやスマホを使えたとしても、見て写すことが難しい。「ひな形があるからこれ通りに」と職業準備支援センターなどで言われるのだが、それが難しいことがわかってもらえない。企業でもまだまだ報告書は手書きを求めるところが多く、そこで躓いてしまう。
- ・長い文章が書けない。主語、助詞を間違える。そのことが理解されない。だが、助詞などを間違えると、PC等で文字が打てたとしてもなかなか言いたいことが伝わる文章が書けない。メールなどでも間違えてしまうため、相手からケンカを売っていると誤解されてしまったり、失礼なことをしていると怒られたりすることがよくある。

書字について

- ・書字は昔から苦手。
- ・力を入れなければきれいな字が書けるが、普段は筆圧が強くきれいな字にならない。
- ・早く書こうとするととても疲れてしまう。
- ・今は何か書かなければいけないときはPCやスマホを使っている。
- ・特訓した時に何度も何度も書いたので、今は名前と住所と電話番号は書ける。
- ・メモを手で取らなければならないとき、後から自分のメモが読めないということがあり困る。
- ・字が汚くても関係ないだろと思って製造業に就職した。工場に就職したが、働いているときはいいが、棚卸のときに字を書かないといけないので困った。そして書いた字が「読めない」と言われ、ペン字を習った。自分でも自分が書いた数字が読めなかったりする。特に、自分が書いた9と4、1と7、5と6、8と6などは読み間違える。
- ・苦手なことをしようとすると居眠りをしてしまう。
- ・企業で働いていたときは日報を手書きで書かなければならなかった。上司からは「読める字で書いてくれ」と言われ、「自分はきれいな字が書けない」と言ったら、「きれいな字でなくていいから読める字を書いてくれ」と言われ困った。
- ・職業訓練校に報告書を持っていかねばいけないとき、職業準備支援センターで書類を出すときもひな形はあるのだが、見て写すのは苦手だし、そもそも紙が薄くてそのことを意識すると筆圧が強いので破れてしまう。
- ・10年くらいまえに識字教室に通った。AとBの会話を聞いて文章に起こしたりするのだが、聞いているときは助詞が正しく使われていてそのことがわかっていても、なぜか書くときには間違えてしまう。

読字について

- ・字は読めるが、読み間違い、読んでからの思い違いがとて多い。そのため、仕事上も指示書などを読み間違っしまい失敗が多い。
- ・注意集中も悪く、それで読めなかったり、読んでも誤解してしまったりするところがある。
- ・今は文字を読むときは指でなぞったり、定規を当てたり、自分で作ったスリットを使いながら読むようにしている。

未就学期のころ

- ・幼稚園のころから多動は激しかった。走るのは2学年上の子どもより早かった。
- ・言葉の種類は少ないが、同じ言葉を3回繰り返して、相手にわかってもらおうとがんばっていた。それでも伝わらなかった。

就学後

- ・小学生の頃は字を読むことは問題なかったが、漢字を覚えるのは一苦労だった。
- ・アイウエオの表でひたすらゆっくりきれいな字を書き順通りに書くという練習をかなりした。
- ・それでも「ひやくえんだま」を書こうとすると「はくえんだま」になった。
- ・小1～2年の女の担任はパワハラな人で、やり方が自分にとっては拷問だった。
- ・サインのように早くしか書けない。ゆっくり書こうとするとむちゃくちゃ力を入れて疲れてしまう。そう思ったことがわかってもらえなかった。
- ・小学1年生から小学4年生の1学期までは普通学級だったが、漢字が覚えられないし書けないし、時計も読み方がわからなかったので小4の2学期から支援級に移った。国語と数学は通常学級に通った。
- ・だが小4の2学期に激しいいじめにあって、登校拒否になった。以来中学2年の2学期まで、学校にはほぼ行っていない。
- ・中学卒業時の成績はオール2。よかったのは生活面くらいだと思うが、中学の担任は成績表や内申書に「屁理屈が多い」と書いていた。中学を卒業して最初に就職した会社の人事課の人から「(中学からの内申書に)屁理屈が多いと書かれていたために、いろんな会社を受けても就職出来なかったのではないか。しかし、実際は『屁理屈が多い』とは思わなかった」と説明してくれた。だが、自分としては屁理屈をこねているつもりはなかったのに、自分のことを全く理解してもらえず、しかも、そういうことを内申書などに書かれてしまったことに対して非常に悔しく思った。
- ・高校は1年浪人して夜間高校、工業高校の定時制に進んだ。勉強は大変だったが、1年先輩が付きあってくれて補習をしてくれたので本当に助かった。

就労・社会参加後

- ・15歳で鉄工所に就職した。ボール盤などを使う製造業だった。図面があって数字が細かく書いてあってミリ単位の仕事をする。実物を持っての作業が始まると1日1回は社長に怒鳴られていた。社長からは1年半殴られ続け、結局、1年半でクビになった。
- ・平成7年から16年半、医療器具メーカーで営業として勤めていた。ここでは、棚卸で苦労した。年に2回は怒鳴られた。それ以外は経験を積んでいたのになんとかができた。結構アバウトな会社だったのもよかった。ところが、リーマンショックで急に経営が厳しくなり、ノルマの締め付けが強くなり、在庫管理のソフトが導入されて、アバウトではいなくなってしまう。そのことを上司の係長や課長4人に問い詰められ、結果、今で言うパワハラでやめた。それまでは会社内の業務は結構自分が改善してきていて、そのことを理解して応援してくれている上司もいたし、本部から来た上司もわかってくれていたのだが、その上司が定年退職後はうまくいかなかった。
- ・平成23年に退職して、職業訓練校に入った。基礎を学べば学ぶほど、手の震えが出てきてしまった。
- ・41歳過ぎて、初めて就労継続A型事業所に入った。
- ・「字は汚い」と学校でも友人からも会社でも言われたが、実際にそのことが仕事上で問題になったのは医療器具メーカーで勤務していたときだけだった。それ以外では、自分が書いている字を見た人(上司など)からは「字が汚い」という指摘はされるが、「きれいに書け」「せめて読める字ぐらい書いたら」と言われたくらい。
- ・医療器具メーカー以外の製造業は、字を書くことがまったくなかった。そのせいかもしれないが、のちに心理学のセミナーに参加して、思ったことを書くという課題が出されたとき、忘れていたひらがながあった。

結論

- ・自分が発達障害ということが分かって気づいたのは、父親と自分がとてもよく似ていることだった。父は文字がよく読めず書けず、ひどい詐欺に合ったりしていた(よくわからないまま書類にサインをするなど)。そういう人に今でも会うので、もう少し学校でちゃんと教えてほしいと思う。社会に出てからも、公的機関などがもう少しさまざまな理由で読み書きが苦手な人がいることの認識を高めてほしい。
- ・書きが苦手ということは、ただ「文字が書けない」だけではない。さまざまな状態がある。文字はかけるけど、文章が書けない。ゆっくりなら書けるけど求められるスピードではかけない。書く紙が薄いと書けない。緊張すると書き間違える。
- ・同様に「文字が読める」からといって、「完全に理解できているとは限らない」ことも、もっと知ってほしい。せめて職業訓練学校の先生やハローワークの人など、公的機関で就労に関わる仕事の人たちは知っているべきではないのか。

現状

・読む事に関しては、一般的な人より読むスピードが遅いので、渡された書類や一冊の本を読む事にかなりの時間がかかる。(読みのスピードは、小学校3年生レベル)
また、公的書類などの堅苦しい文章は、普段使われない言い回しや語彙があるため、読んで理解することや分からない漢字を調べるのに多くの時間がかかり、普通の人より読むのに疲れてしまう。
書字に関しては文字を書くこと自体に時間がかかったり、書く漢字を思い出す事に時間がかかったりしてしまう。また漢字自体を忘れてしまうこともある。それにより、早く文字を書かないといけない場合は、焦ってしまい誤字脱字が増えてしまうことがある。
表面的にはそういった困難を抱えているようには見えないため、相手からは、「マイペースな人」と誤解される。

・ワーキングメモリや短期記憶が弱いので、普通の人より覚えることに時間がかかる。
・形が複雑で難しい漢字や普段自分が使わない漢字は忘れてしまうため、スマホを使い調べる。意味や読み方もわからなくなるとスマホを活用する。
バスや電車の地名が読めず困った時もスマホで対応している(充電器は必須・行き先の事前確認は欠かせない)。

・ネットの記事を読む時、読めない漢字はあるが文章全体の意味は理解できている。その場合、前後の文でその漢字の意味を理解する時がある。
記事を読み上げソフトで読みあげるとき、読み上げている文章と一緒に見た方が理解が深まる。視覚情報と聴覚情報のどちらも必要。
また、読み上げソフトの音声を選べないとしんどい。

・公的なHPや書類は書き言葉なので、その理解が難しくわからないので困る。わからない時は公的機関に電話し聞く。

書字について

・幼稚園のころから習字を習っていたので、書字は絵を描く様な感じで書いていたと思う。習字を習っていたおかげで、1つの漢字が複数の文字の組み合わせとして捉えることができたのではないかと考えている。

例えば、「旨い」という漢字は、カタカナの「ヒ」に漢字の「日」が合わせて出来た漢字という風に捉えていたと思う。しかし、形が複雑な漢字になると覚えられない。

・平仮名は問題なく書けるが、カタカナは自分があまり使わない字は思い出すのに時間がかかる。漢字は、自分がよく使う漢字は書けるが、自分があまり使わない漢字は思い出すのに時間がかかったり書けない時もある。

・問診票などでは住所氏名は普段書きなれているため書けるが、それ以外の細かいことを書くのが苦手。頭でイメージした事を文字におこすことが苦手。自分のイメージにフィットした言葉が見つからない。また、問診票が手書きで困る。

読字について

・単語が出てこず、語彙が少ないため、しりとりが苦手だった。単語が出てこない時は、「あれ」「これ」となってしまう。

・漢字の形から意味を推測するため、「その漢字を音にして読んで」と言われると音がわからない。

・小学校の時に、頭の中でイメージしたことをうまく言葉にできず、もどかしい思いをしていた。

- ・抽象的な言い回しをされると頭の中でイメージしづらいので、具体的な事を言って欲しい。
- ・読みスピードが遅いため図書館で本を借りると、2週間で読み終わらず何度も借りる事がある。最終的に、最後まで読めず返した事が何度もある。
- ・複雑な形の漢字が読めない。
- ・映画の字幕やニュースのテロップは、読んでいる途中で次にいってしまうことがある。
- ・文章を読む時、紙を見る時間が長いので目が疲れてしまう。私の場合、目の疲れの軽減の為グレーのクリアファイルを使い、コントラストを下げることで少し楽になる。

就学後

- ・小学校の時は、漢字が覚えられず苦労した。
- ・中学校では、何度も英語の単語を書いても覚えられなかった。また、社会の暗記や年号を語呂合わせで覚えることが出来なかった。しかし中学校では、成績は良かった印象がある。その理由は、教科書を使わずに先生が作ったプリントで授業が進められ、わからないときは先生に聞きに行く丁寧な教えしてくれたからだ。
- ・しかし、高校生になると授業は教科書を使い始め、授業のスピードも速く、勉強についていくのが本当にしんどくなった。どんどん成績が落ちていった。自分の努力不足だと思っていた。
- ・何とか、大学に進学する事ができたが、難しい言葉や専門用語が増え、大学でも勉強についていけなかった。ここでも、自分の努力不足だと思い、勉強ができない自分がとても恥ずかしかった。

就労・社会参加後

- ・福祉分野の国家資格の勉強を始めた時、通学だと周りのスピードについていけず挫折してしまうのではないかと、自分のペースでできる通信講座で国家資格の勉強をした。
- しかし、通信講座の教科書が分かりづらく、自分にあう国家資格の参考書を買って勉強した。
- ・国家資格の勉強を始める少し前に、ディスレクシアの診断を受けた。
- ・仕事上、報告書を書くときに手書きで書かないといけないので困った。漢字が思い出せず平仮名ばかりになったり、誤字脱字が多くなってしまう事もあった。報告書をICT機器で書けたらいいと思うことが何度もあった。ICT機器を使えば、文字変換をして正しい漢字は選ぶことができるからだ。
- また、手書きは丁寧で心がこもっていると思われているのが嫌だ。
- ・病院などの先生のネームプレートの漢字が読めなくて、「先生は誰か」などと聞かれて答えられずに困ることがある。
- ・福祉分野の国家資格の試験では、集中して問題文を読む時、雑音が気になり集中できなくなってしまうため、座席を窓際の一番後ろにしてもらった。別室受験が本当は希望だったが、医師の診断書が必要と言われた。困りごとに対する診断書を書いてくれる医者がいなかったため、別室受験の合理的配慮は、受けることができなかった。

(ク) KY氏 男性・40代

ヒアリング日：2019年2月13日

診断名：ディスレクシア・ADD(注意欠如障害)

一般企業で契約社員(障害者雇用)

現状

- ・障害者雇用で大手の一般企業に勤務して10年弱。調達関係の業務を行っている。勤め先は障害者雇用を行っており(達成率は低い)、障害のある人たちの能力を生かそうとする合理的配慮とは遠い環境の中でかなりの無理をしながら、毎日を死にそうになりながら過ごさざるを得ない状況にある。
- ・スマホやタブレットなどICT機器が読み書きのしんどさを支えてくれる、生きていくうえでの自分の生命線。ただ、障害者雇用では収入が少なく、また障害者年金が出るわけでもない。一方、こういったメディアが必須なので利用度はとても高く、その結果、端末の購入費と通信費がとても高く、生活の大きな負担となっている。視覚に障害のある方にとっての盲導犬や白杖と同じなので、ディスレクシアや学習障害など障害のある人がICT機器を使うための端末購入費の公的負担や利用料金の長期割引するなどなにか補てんしてほしい。

- ・銀行、保険、ライフラインなど文字の込み入った契約書や説明書などを読むことがとても大変。定型発達の人もそうだろうが、とにかく字が小さすぎるのでますます読めない。規約などは知りたいことがどこに書いてあるか見つけられないことがよくある。ところがそれがわからないと不都合なこともよくある。これは障害のある人にはホントに不利益だと思う。
- ・自分の場合、読み書きだけが課題(読み書きができないのではなく時間がかかる、きれいに書けないなど)なので、IT化されていて紙ベースで資料を作らなくてもよければ障害者雇用の必要は殆どなく、仕事の範囲も職種も広がる。ところが、そのことを障害者就労のプロが知らない。ハローワークは少し良くなったが、未だに「さぼっている」「がんばってない」と思われるのが実態。

書字について

- ・手書きはほぼ困難、タイピングで文書は書けるが、聴きながら書くことはほぼ不可能。
- ・英語の会話はできてもスペルを覚えることができず、ローマ字書きとなってしまう。

読字について

- ・読めないわけではないが、かなりの集中力を要するうえに時間がかかるため疲れてしまう。
- ・自分はディスレクシアのなかでは読みに関する状態が重くないほうのため、ある程度読めるからこそ周囲から「できるはず」「もっと読めるはず」「ホントはできるのにディスレクシアと言っているのでは」と誤解もされる。これがとてもしんどい。というのも、自分にとっては読みにくい文章(普段使わない単語が多く、回りくどい表現)があるからだ。たとえば、自分が知識を持っていないことについて書かれている文章などはその典型。知らない内容だと、文脈を捉えるのに相当な労力を要してしまう。無理して読んだ後に過労状態となり何もできなくなっていると、それが「さぼっている」と捉えられてしまう。
- ・英語の文書は文字から中々音が浮かばず、短文以外を読むことに相当な困難を伴う。

未就学期のころ

- ・しりとりは苦手だった。

就学後

- ・小学校にあがっても文字をなかなか覚えられず、読み書きはずっと大変だった。
- ・小学生のときの課外活動では、担任以外の複数の先生が「君は観察力があって判断が的確だね」などと褒めてくれたことが大きな自信につながる。
- ・勉強はできる教科とできない教科が極端だった(読むのに時間がかかる、書くのに時間がかかる、ノートを取るのに精一杯で授業の内容が頭に入っていない、テストは問題文を読むのと答えを書く時の字が思い出せず時間がかかるため、答えはわかっても全ての問題文を読んで解答する前に、テスト時間が終了してしまい結局点数が取れない等)。
- ・小中学校の時、父の仕事の関係でアメリカに一時住んだ。その時、今思えば現地校で学習障害を疑われていたと思われる。学びの配慮を受けていたが、その時点では具体的な説明はなく、日本に戻ってきてから特別な指導を受けることはなかった。
- ・高校は職業高校に進学。実技実習が多く教室での授業が少なく、小学校のときに観察力と判断の的確さをほめてもらったことから、何とかなるかもしれないという思いもあって選んだ。実際にはレポート提出をすることがそれなりに多く、楽ではなかった。
- ・高卒後、専門的な内容の探究心は強かったので大学に行きたいという気持ちもあったが、当時は勉強自体が苦手という思い込みがあり、卒業した学校の専門分野へ就職した。上司はかわいがってくれたが、運転免許を取らなければならずそこで困り辞職した。
- ・同業関係の人が集まる業界団体へ個人で加盟し、そこには学者から経営者までさまざまな背景を持つ人たちが集まっており、とても刺激的だった。それで、やはり大学で勉強したいという思いが強くなった。
- ・ただ、この時はまだ自分はディスレクシアだという診断はなかったし、合理的配慮の制度もなかった。そこで、まずは受験科目に英語のない短大を選び、受験のときは入試の小論文を予測した内容で事前に下書きし、それを文字も含めて丸暗記する形で臨んだ。
- ・大学の授業はすでに独学での勉強が済んでいるものが大半であったので、あまり新鮮ではなかった。ただ、ここでもテストで書くという問題があった。内容は理解できるし口頭でならこたえられるのにそういう配慮はないのがつらかった。その後、第一志望の四大に編入しようとしたが、受験の必須科目に英語が

があったので受からず、口述試験のみの第二志望の大学に編入した(別の学部でディスレクシアのことを研究している教授もいたが配慮を得ることは中々難しかった)。大学時代の後半に、読み書きの多さで無理を続けたことから心身の不調が多くなり、学習障害(ディスレクシア)の診断を受けることとなる。

就労・社会参加後

- ・就職はSPI(適性検査)で困った。わからないからではなく、ディスレクシアであるがゆえに読字や想起に時間がかかり点数が取れない。面接をすれば受かる自信があっても、それ以前のSPIで落とされてしまう。
- ・結局、大学卒業の少し前に手帳を取り、障害者雇用に転向。しかし、当時は発達障害だという「コミュニケーションに困難がある人はちょっと」と言われたりした。「コミュニケーションに困難のないLDなんです」と言っても、LDのことを知らずLDの説明をしても「知的障害には見えない」などと言われた。
- ・それでなんとか目指していた分野とは異なる一般企業に就職。採用時に聞いていて、なんとかできる範囲かなと考えていた業務内容と、実際の業務内容があまりに異なり言葉を失ったが、幾らか専門の分野を活かせる要素があったので、仕方なく諦めてなんとか仕事を続けてきた。だがそれもそろそろかなりの限界にきている。

- ・役所へ提出する書類の多くが手書きを前提とされており、これは本当に大変。書類がHPにアップされている場合もあるようだが、問題はそれがPDFになっていてPCで記入できないこと。PDFにしているのは事前にプリントアウトして「手書きしろ」と言う意味であって、ディスレクシアや書字障害、日本語を母語としない人などを想定していない。せっかくアップするのなら、なぜPC上で記入できるようなフォーマットにしておかないのか。
- ・全般的に役所は「紙に手書きで記入」が多いため、その都度誰かに代筆を頼まなくてはならない事がかなりの負担となっている。
- ・以前は電車の駅名等が読めず乗り換えなどに困っていたが、現在はスマホの乗り換え案内で対応している。地名や人の名前は読みづらく困ることが多いが、ローマ字があれば読める。
- ・読み書きがしんどいためスケジュール表を書くことも難しいが、これもスマホからクラウド上で管理をしている。
- ・レストランのメニューで困ることがある。外国人も来るのだから、全メニューにローマ字表記を行ってほしい。
- ・電光掲示板で流れる文字が読み終える前に消えてしまて困る。
- ・日本の道路標識は情報が多すぎて困る。標識の数自体も多く、また標識に書かれている文字数も多く、特に方向を案内する標識はどこに向かえばいいか瞬時に分からず、正しく理解する前に通り過ぎてしまう。これもディスレクシアの自分には困る。

結論

- ・読み書きに関するアクセシビリティが本当に悪いと思う。海外では基準があり、法律で決まっているが、日本はまだ遅れている。例えば取扱説明書ひとつとっても、文字で説明するのではなくイラストでやるなど、方法はあるはずだ(イケアの取説など)。
- ・ディスレクシアや学習障害については、転職のプロがいない。発達障害者の就労斡旋をやっていると積極的に打ち出している大手民間企業もあるが、実際の現場は素人としか思えないような対応状況もあり、企業側にアドバイスもできないなど、内容が全く伴っていない現状もある(障害者＝単純労働、が常識という感覚がまかり通っていて。自分が相談に行ったときは「そんな人(障害がある)に見えない!」と言われて、逆に驚いた。未だにそんな意識なのか、と)。ここは国が何とかすべきではないかと思う。
- ・現在の障害者雇用(精神保健福祉手帳)では、ファイリングやデータ入力などといったマミートラックと同様な、雇用率に対する数合わせが目的の単純労働の募集内容が大半をしめている。そういった仕事は私にとってハンディとしての負荷が大きい仕事でもあり、またスキルが身につかないばかりではなく、国際的に日本での導入の遅れが指摘されている第四次産業革命に関わる技術で、クラウド化によるペーパーレス化や、RPA(Robotic Process Automation)とAIによる自動化が進めば、近い将来失われる可能性の高い仕事内容ばかりである。機能不全で数合わせばかりのSDGsが、将来的に社会的な負荷と分断をより深めるのではないかと危惧を抱いている。本音は組織がフラットで、業務にスピード感のある外資系に行きたいが、英語の読み書きでは、よりハンディが大きくなってしまったため難しい状況にある。

現状

- ・会社をいくつも起業し、今はグループ企業にまで成長させたが、いまだかつて新聞も本も読んだことがない。
- ・全く読めない書けないわけではないが、読んだり書いたりするのに時間がかかる。そのため何を読んでいるのか、何を書くのか、わからなくなる。
- ・偏と旁のある漢字は読めない。
- ・読み書きが苦手だからこそ、常に先に対策を考えて対処してきた。リスク分散をする発想が最初からあったのも、読み書きが苦手だったからだと思う。
- ・自分にはできないことがあるので、人をうらやんだりねたんだりしないし、人を見たら信じるし頼る。それも生きていくうえでよかった。

書字について

- ・平仮名カタカナの書字はできる。
- ・漢字や長い文章を書くのはしんどいが、自分が起業した会社なので、自分が書かなくても困らないような工夫をした。

読字について

- ・平仮名カタカナ、簡単な漢字は読める。
- ・形が複雑な漢字になると読めない。
- ・長い文章になると読めないなので、他人に読んでもらって説明してもらう。

就学後

- ・小学1年生のとき、平仮名カタカナは書くのも読むのも問題がなかった。
- ・漢字も簡単な象形文字は大丈夫だが、偏と旁が出てきたころからできなくなった。
- ・方向感覚は抜群にいい。
- ・数学も大丈夫。円周率などは小数点以下20桁くらいまで自分で計算できた。
- ・物理もよくわかった。
- ・中学の英語の先生だけはひどかった。「どうせわからないし、答えられない」と、順番で当てて答えさせていくときに私だけを飛ばすような先生だったからだ。自分としては「わかりません」と答えさせてほしかった。怠けているからできないわけではないし、自分なりに授業には参加していたからだ。それなのに、「私のことだけを飛ばす」という行為は、自分の存在そのものを否定されたこと。とても傷ついたので今でもよく覚えている。
- ・商業高校に入学したが、英語や社会など文字の多い教科はみなできなかった。
- ・ただ、親や兄弟から読み書きができないとか勉強ができないことを責められたり叱られたりバカにされたりしたことは一度もなかった。
- ・人よりできないのだから、自分は他人を妬んだり嫉妬したりしたことがない。そもそも「自分は読み書きができないバカ」と思っていたから、他人を妬む理由がなかった。
- ・母親は、私が読み書きできないことに対して「もっと頑張れ」という感じだった。
- ・だが、農業をやっていた父親は「学校の勉強よりも社会のほうが大事」「勉強ができなくても心配いらん。人としてまじめにやって悪いことをしないように生きていけばいい」「貧乏になるのも金持ちになるのも、周りの人がしてくれる。だから周りの人を大事にしろ」といつも言っていた。父の存在は自分にはとても大きかったし、今思えばありがたかったと思う。
- ・兄や姉たちもかわいがってくれた。

就労・社会参加後

- ・商業高校の卒業式に参加する前の2月に上京して就職したが、研修6か月を経て10か月目には退職した。理由は注文書が読めないし書けないから。

- ・読み書きができない自分がどこかに就職するのは無理だと思った。
- ・当時、東京農業大に行った兄がビル掃除のアルバイトをやっていて、そこに誘われた。それからはビル掃除専門のアルバイトを必死で頑張った。高度経済成長期ということもあり、ビル掃除の仕事はいくらでもあった。
- ・最初は昭和41年3月、19歳くらいのときに東京23区内のアパートの2階に、ビル清掃等をする組織を作った。とにかく働いて働いて働きまくってお金を貯めた。
- ・昭和46年、1971年に横浜から船でシベリアにわたり、シベリア鉄道に乗って旅行をした。自分は読み書きができないから、どこへ行っても一緒。だいたい、日本だろうが外国だろうが、メシを食うか寝るか法律を守るかで、やることは一緒だと思っている。よく「一人で海外に行って困らないのか？」と言われたが、困ったことは一度もない。読めない書けないは日本でも海外でも同じだが、日本で読めないといういろいろややこしい。だが、海外では「外人だから読めなくても当たり前」と思われるのか、何も言われないので、結論から言うと海外のほうが楽だった。
- ・昭和48年1月、都心のビルに移り、昭和49年4月に有限会社を作り、昭和54年6月に株式会社にした。
- ・起業してからは、読めない書けないなら人を雇ってやってもらえばいいと考えた。書類は司法書士に、法律関係は弁護士に、経理は会計士に、と優秀な人をどんどん引き抜いてやってもらうようにしていった。それぞれ当時もらっていた給料の1.5倍、2倍を出して引き抜いた。全員年上だったが、彼らの生活保障をすることで私自身の預貯金から生命保険まで全部見てもらった。
- ・中学時代の英語教師に惨めな思いをさせられたが、社会に出たら、言葉ができる人を雇って通訳や翻訳してもらえばいいだけのこと。海外では言葉ができなくても全く困らなかったが、必要なときには通訳等を雇った。
- ・黙っていれば他人はわからないので、いちいち外で「自分は読み書きができない」と公言していなかった。また、身内にも言っていなかった。何か読まなければならないものがあれば「あんたに渡すから読んであとで説明して」と言って乗り切っていた。
- ・ディスレクシアだと気付いたのは、2年前、EDGEの藤堂栄子さんの話を聞いて。「あれ、これ、私のことじゃん！」と思ったら、気持ちがスッと楽になった。それまで「家族の中でも私だけが生まれつきバカ」と思っていたが、そうじゃなかったとわかったのは大きかった。自分は起業し、M&Aもし、会社を大きくして、多くの社員も雇って、自分も家族がいて幸せだが、それでも人より出来が悪いということに対して劣等感があった。
- ・70歳になったとき小中学校時代の同級会があったので初めて参加した。子どものころ優秀だった同級生が某市の教育長をやっていた。教育予算が少ないと聞き、同市全小中学校にキーボードと電子黒板を寄付した。こういったIT機器の普及が自分のような読み書きの苦手な子どもたちの支援につながることを願っている。

結論

- ・自分は、読み書きは苦手だが、人に頼む力があつた。
- ・そもそも人よりできないのだから、他人を妬んだり嫉妬したりしたことがない。が、このことも、ビジネスを成功させる上ではよかったと思う。というのも、できないことは優秀な誰かに任せるという発想が自然にあったし、伸びそうな人がいたらどんどん伸ばしていこうということもできた。おかげで会社は大きくなった。
- ・だが、これらはみな父親の教えだった。自分は父親から言われた「人としてまじめにやって悪いことをしないように生きていけば、貧乏になるのも金持ちになるのも周りの人がしてくれる。だから周りの人を大事にしろ」という言葉を守ってきただけだと思う。

2. 支援者からのヒアリング調査

(1) 本調査における支援者からのヒアリングの目的

本調査のアンケートは、発達障害者本人とその親対象に実施した。顕在化されにくい「読み書き困難」についても、当事者本人の感じ方が反映される主観的な集計結果になるため、障害児者に関わってきた支援者から、発達障害者の現状と抱えている困難、その背景についてヒアリングし、客観的な視点を加えることとした。

(2) 対象選定の理由

「顕在化されにくい」現状にある「おとなの読み書き困難」に対して客観的な視点を加えるにあたり、下記条件を設定した。

- ①発達障害児者の支援にあたり、個別の相談事例に多く接していること。
- ②おとなの読み書き困難の背景を分析するにあたり、「おとな以外」あるいは「発達障害者以外」の支援をしていること。

この条件に基づき、ヒアリングの対象として下記のように、3名に協力を依頼した。

(ア)検査・相談(カウンセリング)事業の視点から

おとなの発達障害の支援についても、アセスメントに基づいて行われる必要があるが、現在、おとなの発達障害について相談・検査ができる機関は少ないのが現状といえる。おとなになってから初めて検査を受けて、「読み書きの苦手さがあった」と気がつくのは、「読み書き困難」が幼児期・学齢期を通して見過ごされやすいということを示している。事業のひとつとして、幼児期から成人期まで、相談に来る人に合わせてオーダーメイドで検査を組み、総合的に見るアセスメントをおこなっている事業所に、その多くの事例をもとに読み書き困難が見過ごされやすい現状と背景についてヒアリングをおこなった。

(イ)就労移行支援の視点から

2016年に弊社が行った「教育から就業への移行実態報告書Ⅳ」(全国LD親の会・会員調査)では、
・障害者手帳・判定の取得時期は、精神障害者保健福祉手帳は18歳以上が81%と圧倒的に18歳以上での取得が多い。

・現在の状況別の手帳の内訳では、「学校在学中」と「就業・一般」が、危険率1%で療育手帳と精神障害者保健福祉手帳の比率が低い。「支援事業所」は、危険率1%で精神障害者保健福祉手帳の比率が高く、危険率5%で療育手帳の比率が高い。「在宅」は危険率1%で療育手帳比率が低く、精神障害者保健福祉手帳比率が高い。

ことがわかっており、発達障害者の多くが、18歳以上になってから精神障害者保健福祉手帳をとり、支援事務所で就労先を探していることが示されている。

また、医療機関の継続的な利用においても、

- ・「支援事業所」の人は危険率1%で通院比率が高い。
- ・「在宅」の人は危険率5%で通院比率が高い。継続して通院している主な診療科は精神科がほとんどである。

ことがわかっている。

以上のことから、精神障害者全般の就労支援にあたっている事業所に協力を依頼し、「読み書き困難」がある人の就労における課題について、ヒアリングをおこなった。

(ウ)作業療法士の視点から

「不器用」は発達障害児によく見られる特性ひとつであるが、おとなになって就労先を探す際、作業速度が大きな課題になる場合が多い。「不器用」は、学齢期には書字の困難としてあらわれやすいが、学校の教育現場では教師による指導は難しいのが現状である。小学校の巡回相談指導にあたっている作業療法士に、具体的な支援を中心にヒアリングをおこなった。

(3) 調査方法

ヒアリングの内容は、本調査事業の目的、アンケートにより収集している内容等を説明した後、それぞれが活動してきた支援内容を踏まえて提示しておいたヒアリング項目についておこなった。ヒアリングの時間は約2時間で、それぞれの勤務事業所の施設においておこなった。

ヒアリング終了後、内容をデータ化し、再度ヒアリングを行った3名に対して確認を依頼し、データの修正を行った。またその際に不明な点等についても補足を行った。

(4) ヒアリング内容

(ア) 検査・相談(カウンセリング)事業の視点から

・おとなになってから検査を受けにくる背景

多くの場合は、「就職が順調にいかない」「就職していたが離職してしまった」ことをきっかけに、何が原因なのか知りたいと、検査を求めてくるパターンが多い。幼児からおとなまでの社会生活の困難さについて相談を受け付けているので、医療機関を受診するより、気持ちの上で連絡を取りやすいといえる。「読み書き」については、「読めなくて困っている」という相談はあまりない。「書くこと」については、「急に書類を出されて書けなかった」「手書きで文字を書いても、合っているか自信が無い」といった困り感を挙げたケースがあった。スーパー等のレジ業務自体は問題なくこなせても、急に「領収書を書いてください」と求められて対応に困ったという事例もあった。離職の原因は「対人関係」という話だったが、相談後の検査結果からわかることを伝え、対人関係悪化の背景には、もともと持っている困難さに原因がある場合が多い。

・「書くこと」の困難が見過ごされやすい背景

処理速度が遅い場合の多くは、手先の不器用さを持っている。不器用による書字の苦手さという点では、視機能の問題や体幹にブレがあるような場合が多いように感じる。「書字が苦手」とは直接的には訴えないが、検査の結果に「視機能の弱さ」があるため、学齢期の状況を聞くと、「黒板が写すのが嫌いだった」といった話が出てくることがある。また、もともと左利きだったが、幼いころから書字は右で書くようにしてきて、利き手でないために「書くことが苦手」という状態になっていることに、おとなになって離職等の問題が出てきてから気が付くというケースもある。

以上のように、おとなになってから仕事が入りづらいことで気がついたというケースは、学齢期にはいろいろな困難さを自身の工夫でカバーしていることが多く、学齢期での支援につながらないことが多い。おとなになって困った状況になっても、障害者手帳が無いので支援にたどり着くまで時間と労力が掛かる。二次障害のような精神症状が出てから、初めて障害者手帳がとれて支援にたどりつくより、もっと気軽な相談場所で支援を受けることができれば、早い段階で良い方向に動くように思う。

・「読むこと」の困難が見過ごされやすい背景

「読み」の場合は、視機能検査のWAVESを一定数取っていると、「波線が動いている」と言う子がかなりいる。線だけでなく文字も動いて見えるようで、「動くもんだと思っていた」と言う子もいる。動いて見えるのが当たり前なので、自身は「読みにくい」とは思っていない。「読み」に関しては、生まれ持っているものなので、本人にもわからない。見える文字が流れていようが跳んでいようが、それが普通と思っている。45度傾いて見えるという人もいて、プリズムメガネを作っただけで、傾いて見えなくなったというケースもあった。

小学生の算数で、直線を引いて、本人は「まっすぐ」と言うが、実際には「まっすぐ」ではない。学校の授業では、図形の単元が終わってしまうと、引いた直線がまっすぐかどうかはあまりを気にすることも無いので、その子どもに見え方の問題があると気がつきにくい。また、体幹の弱さについても、「姿勢が悪い」「態度が悪い」といった注意だけで、本来の問題が見過ごされやすい。見過ごされたままおとなになり、仕事でつまづいて、初めて本来の原因がわかる。

最近、職場の発達障害の人への対応に目が向けられてきているが、どちらかというと対人関係や手順をわかりやすく掲示するといった内容が多く、まだまだ「読み書きの苦手」ということについては

理解が進んでいない。「全く読めないわけではない、全く書けないわけではない、しかし、時間が掛かってしまう」ということが理解されず、職場で「遅い」「怠けている」と言われてしまう。本人が自分なりのツールを身に付けていくことも大切だが、社会啓発をしていくことも大切な部分かと思う。

(イ) 就労移行支援の視点から

・就労する上での「読み書き困難」の現状と支援

就労支援の体制としては、「読み書き」に限らず、どのような支援が必要か個々に対応していくため、「読み書き」についても統一的な手法があるというわけではないが、「読む」と「書く」については、「書く」ことの対応が圧倒的に多い。精神障害者の雇用支援という事業所の性格上、クリニックからの紹介が多く、ほとんど診断名はついていないが、ただ、重複に関して言えば、二障害以上併発しているケースが多い。幼い時から診断されていたというより、社会に出てから躓いて、鬱と不安症状、双極性、適応障害の状態が多い。

「読み書き」については、主治医の意見書に症状として「読み書き困難なので、配慮が必要」と書かれている場合はほとんどない。ただ、教育課程でネガティブな経験があるなどして、「書かせる作業はあまりしないで欲しい」という場合はある。本人や主治医から伝えられることはないが、デジタル文字のような角ばった文字を書いたり、文字の大きさが極端に大きかったり小さかったりすることは良く見受けられる。空間認知が悪く、枠からはみ出してしまう場合もある。実際には、書字は苦手だが、書字そのものについて配慮を求める状態ではない方が多い印象を受ける。

「読み書き」が苦手な場合は、職業選択の時に現業系(製造系)を選ぶことが多いが、職場実習の際に手順書が多いと、本人から「手順書を読むのは苦手なので、実際にやって手本を見せて欲しい」と希望するケースもある。現業系の現場は、教える時に手順を見せる方法は昔からのやり方なので、それほど困らない。支障があるレベルではないが、実際に座学系の訓練で読み上げをしてみると、飛ばし読みをすることは見受けられる。就労支援の現場としては、器質的に苦手な所は初めから除外して支援していくので、それほど大きな問題としては挙がってこない。

・「メモを取ること」の苦手さについて

「書く」ことの苦手さでは、「指示のメモ取り」ができないことが顕著に見られる。現業系は教えるほうも忙しいので、指示をその場その場でひとこと言うだけのことが多い。周りもうるさい環境の場合が多く、復唱する時間も無く終わってしまう。「聞くこと」にも困難があったり、書くスピードも遅かったりすると、書ききれないことが多い。

事務系の職場で、ゆっくり説明を受けても書ききれないケースは多いので、「メモを整理する時間を作って欲しい」「書くまで待ってもらおう」「復唱する時間まで入れてもらおう」といった配慮をお願いする。タブレットやPCを入れてもらうほうが早い場合もある。現業系で現場にPCを持ち込んで打つという配慮までは難しくても、「あとでPC入力して整理する時間を作る」といった配慮まではお願いする場合もある。

「メモ取りできることが仕事能力」といった職場はまだ多く、「メモ取りできるか否か」といったところが、職場でやっていく関門のようなところがある。「メモがどうにか取れる」「メモを整理できる」ということが、仕事を続けていけるかどうかにかかると占める割合は結構高いといえる。

まだ、雇用側には、「メモ取りの配慮」は理解されないことも多い。障害者雇用の求人は、学生の新卒求人とは異なり、新人研修なども少なく、即戦力というケースが多いので、雇用側も人が足りなくてそこまで見ている時間はないという現状がある。支援者側がそれぞれの職場の中で、メモ取りなど配慮の時間を入れ込んだ提案をしていくことになる。

(ウ) 作業療法士の視点から

・「書くこと」に影響する不器用に対する支援について

いわゆる「不器用」は、おとなになって仕事をしていく際にも作業速度に関係してくるので、幼いうちから何かしらの支援があると、かなり違ってくる。「不器用」については、学齢期には「書けない」「字が汚い」「筆圧が強い」という形であらわれてくるので、「読むこと」よりも「書くこと」のほうが課題と

して見つけやすい。

筆圧の弱い子は、支援しているうちに次第に力が入るようになってくるケースが多いが、筆圧が強い場合、入っている力を抜くのは意外と難しい。不器用な子は消しゴムの使い方もうまくないので、筆圧の強い字を消しゴムで消そうとしてプリントの紙が破けてしまうことも多い。不器用だと何でも力任せで、道具などをすぐに壊してしまいがちだが、幼いときから、指や手首といったからだの使い方についての試行錯誤を経験することが大切になる。「服のボタンをとめる」といったことでも、力任せずに扱うのではなく、指でボタンやボタンの穴を持つ位置や手首のひねり方、力を入れる場所などを教えてあげる。道具を工夫することも大切だが、手の感覚で試行錯誤することを幼いときから積み重ねていくと、力を調整し、力任せ以外の方法があるということに気がつく。手や指の使い方を教えるような支援を幼児期からしていたら、おとなになり、書字が苦手な部分はある程度残っても、力の入れ過ぎが原因の疲労などの軽減につながると考えられる。

触覚や固有受容感覚といった自身の体からの情報を得る感覚というのはとても大切で、字が思い出せない子に、手のひらに少し触れて書いてあげるなど、体の感覚を使うと良い子もいる。恐らく、小学校の頃にしておく支援ではないか。

漢字の学習において、書くことはかなり苦手だけれど、読む方は学年相当にできる子どももいる。しかし、書けないと学校のテストで合格点をとれず、先に進ませてもらえず、モチベーションを低下させてしまっている状況を見かけることがある。このような場合、苦手さだけに着目するのではなく、比較的得意な読む方を伸ばすことも大切である。表に漢字、裏に読み仮名を書いたカードを使い、読めたら「合格」・「読めなかったら「再チャレンジ」の箱に入れるといった活動などは、「合格」に入るカードが増えていくので、子どもは達成感があり、また、繰り返すことで記憶も定着していく。

・苦手な作業を続けていくには

不器用な子にとって、指先を使う作業などはうまくいかない、苦手な作業なので、楽しんで続けていく状況を作ることが重要になる。「書く」、「文章を作る」という作業を続けていけるモチベーションの維持が必要になる。

最近では、学齢期から携帯を使っているケースが多いが、携帯では短い文で送受信することが多く、「携帯を使うようになって文章がうまくなった」という話を保護者から聞いた。携帯では、履歴から候補となる単語出てくることから、はじめから文章を考えるより簡単にやりとりの文章が作ることができ、相手とのやりとりの回数を重ねることで文章が上手になるということもある。

作業も道具も、本人の使いたいという気持ちが続くような、ほどよいチャレンジであることが大切である。

・「読み」の困難に対する支援・配慮の難しさについて

「読むこと」は、どのあたりが困難なのか、支援者を含め周囲にはわからないところに、難しさがある。仕事で求められる内容や速さが職場によっても、状況によっても異なるので、「読み書きが苦手」とわかっているのに、してみないとわからない部分が多い。

職場に障害のある方々が勤務する部署があり、アンケートの入力などをしていただけるとのことで、数字が縦に並んだ調査票の入力をお願いしたことがある。記述の回答なども入力できる人が数人いるので、大丈夫だろうとお引き受け下さった。しかし、数字がずれるなどミスが多く、難しかったとのことだった。縦に並んだ数字を読み取り、PCの入力シートは横に入力すること、そしてアンケートの元の数字へと目を移すことを要する作業であるため、目の動きに拙劣さがある人にとっては、正確に行うことが難しかったと考えられる。一般に考えられる難易度と読み書きが困難な人にとって、難しいことが一致しないこともある。

小学校の教室には「教室のルール」など、授業の内容とは直接関係ない掲示物も多いが、「読み」に困難がある子は、内容がわからないものも多い。授業の勉強だけでなく、わかりにくいものがたくさんあることに周囲が気がつかないと、生活面での積み残しも多くなる場合がある。

第3章 読み書き困難に対する支援

1. 療育・指導の状況

表3-3-1-1-1 「一番苦手なこと」と「読み書きについて療育や指導」

		読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか													
		[2]④	[2]④	[2]④	計	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④		
		a	k	0		b	c	d	e	f	g	h	i	j	
苦手なこと	7a	字を読むこと	5	2	0	7	4	1	0	1	0	1	0	1	0
	7b	文書を読むこと	4	2	0	6	0	0	2	1	1	1	0	0	0
	7c	字を手書きすること	18	14	2	34	12	2	2	5	4	0	0	3	1
	7d	人と話すこと	40	56	1	97	26	3	5	8	3	1	6	6	4
	7e	文章を手書きすること	16	15	0	31	11	1	1	2	1	0	1	1	5
	7f	説明すること	39	28	0	67	22	1	5	8	6	2	1	7	6
	7g	計算すること	29	24	0	53	17	4	6	1	5	0	0	10	5
	7h	金銭管理	15	12	0	27	8	3	2	2	0	0	0	3	3
	7i	読み書きが遅い	5	5	0	10	2	1	0	0	2	0	0	1	1
	7j	人の話を聞くこと	12	9	1	22	8	1	3	2	0	1	0	3	0
	7k	わかりやすく話すこと	38	37	2	77	22	3	10	10	2	1	2	6	4
	7l	内容を推測すること	32	35	0	67	21	5	8	5	1	0	3	3	5
	7m	落ち着いて取り組むこと	6	10	0	16	3	1	1	3	1	0	0	2	1
	7n	細かい手作業	8	9	0	17	8	0	2	2	1	0	0	0	1
	7o	手早い作業	11	19	0	30	4	1	3	3	2	0	0	3	1
	7p	整理整頓	27	34	1	62	17	0	2	3	2	1	0	1	5
	7q	公共の場で静かに	4	2	0	6	2	0	1	2	0	0	0	1	1
	7r	道具や用具を使うこと	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	7s	その他	7	10	0	17	3	1	1	2	0	1	0	0	0
	7t	特になし	13	7	0	20	8	0	1	2	1	0	0	2	1
	70	未回答	4	5	0	9	2	1	1	0	2	0	0	0	1
	7W	複数回答	91	89	0	180	60	7	16	12	10	2	1	23	10
	7Wab	複数回答でaかb含	23	14	0	37	17	3	2	3	1	0	0	4	3
	7Wce	複数回答でcかe含	36	21	0	57	23	6	4	5	3	2	0	9	4
	7ab	全部の回答でaかb含	32	18	0	50	21	4	4	5	2	2	0	5	3
	7Nab	全体の回答aとb含まず	393	406	7	806	240	32	68	69	42	9	14	72	52
	7ce	全体の回答でcかe含	70	50	2	122	46	9	7	12	8	2	1	13	10
	7Nce	全体の回答cとe含まず	355	374	5	734	215	27	65	62	36	9	13	64	45

	読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか
[2]④a	ある
[2]④k	ない
[2]④0	未回答

	読み書きについて療育や指導を受けた場所
[2]④b	学校
[2]④c	児童発達支援センター
[2]④d	療育センター
[2]④e	医療機関併設の療育機関
[2]④f	大学等研究機関
[2]④g	児童発達支援事業所
[2]④h	放課後等デイサービス事業所
[2]④i	学習塾
[2]④j	その他

表3-3-1-1-2 「一番苦なこと」基準の「読み書きについて療育や指導」比率

		読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか												
		[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④
		a	k	0	b	c	d	e	f	g	h	i	j	
苦 手 な こ と	7a 字を読むこと	71%	29%	0%	80%	20%	0%	20%	0%	20%	0%	20%	0%	
	7b 文書を読むこと	67%	33%	0%	0%	0%	50%	25%	25%	25%	0%	0%	0%	
	7c 字を手書きすること	53%	41%	6%	67%	11%	11%	28%	22%	0%	0%	17%	6%	
	7d 人と話すこと	41%	58%	1%	65%	8%	13%	20%	8%	3%	15%	15%	10%	
	7e 文章を手書きすること	52%	48%	0%	69%	6%	6%	13%	6%	0%	6%	6%	31%	
	7f 説明すること	58%	42%	0%	56%	3%	13%	21%	15%	5%	3%	18%	15%	
	7g 計算すること	55%	45%	0%	59%	14%	21%	3%	17%	0%	0%	34%	17%	
	7h 金銭管理	56%	44%	0%	53%	20%	13%	13%	0%	0%	0%	20%	20%	
	7i 読み書きが遅い	50%	50%	0%	40%	20%	0%	0%	40%	0%	0%	20%	20%	
	7j 人の話を聞くこと	55%	41%	5%	67%	8%	25%	17%	0%	8%	0%	25%	0%	
	7k わかりやすく話すこと	49%	48%	3%	58%	8%	26%	26%	5%	3%	5%	16%	11%	
	7l 内容を推測すること	48%	52%	0%	66%	16%	25%	16%	3%	0%	9%	9%	16%	
	7m 落ち着いて取り組むこと	38%	63%	0%	50%	17%	17%	50%	17%	0%	0%	33%	17%	
	7n 細かい手作業	47%	53%	0%	100%	0%	25%	25%	13%	0%	0%	0%	13%	
	7o 手早い作業	37%	63%	0%	36%	9%	27%	27%	18%	0%	0%	27%	9%	
	7p 整理整頓	44%	55%	2%	63%	0%	7%	11%	7%	4%	0%	4%	19%	
	7q 公共の場で静かに	67%	33%	0%	50%	0%	25%	50%	0%	0%	0%	25%	25%	
	7r 道具や用具を使うこと	100%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	
	7s その他	41%	59%	0%	43%	14%	14%	29%	0%	14%	0%	0%	0%	
	7t 特になし	65%	35%	0%	62%	0%	8%	15%	8%	0%	0%	15%	8%	
	70 未回答	44%	56%	0%	50%	25%	25%	0%	50%	0%	0%	0%	25%	
	7W 複数回答	51%	49%	0%	66%	8%	18%	13%	11%	2%	1%	25%	11%	
	7Wab 複数回答でaかb含	62%	38%	0%	74%	13%	9%	13%	4%	0%	0%	17%	13%	
	7Wce 複数回答でcかe含	63%	37%	0%	64%	17%	11%	14%	8%	6%	0%	25%	11%	
	7ab 全部の回答でaかb含	64%	36%	0%	66%	13%	13%	16%	6%	6%	0%	16%	9%	
	7Nab 全体の回答aとb含まず	49%	50%	1%	61%	8%	17%	18%	11%	2%	4%	18%	13%	
	7ce 全体の回答でcかe含	57%	41%	2%	66%	13%	10%	17%	11%	3%	1%	19%	14%	
	7Nce 全体の回答cとe含まず	48%	51%	1%	61%	8%	18%	17%	10%	3%	4%	18%	13%	

	読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか
[2]④a	ある
[2]④k	ない
[2]④0	未回答

	読み書きについて療育や指導を受けた場所
[2]④b	学校
[2]④c	児童発達支援センター
[2]④d	療育センター
[2]④e	医療機関併設の療育機関
[2]④f	大学等研究機関
[2]④g	児童発達支援事業所
[2]④h	放課後等デイサービス事業所
[2]④i	学習塾
[2]④j	その他

表3-3-1-2-1

「一番苦手なこと」と「療育・指導を受けた場所」
学校で受けた場合どこで受けたか

	[2]⑤a	[2]⑤b	[2]⑤c	[2]⑤d	[2]⑤e	実数
7a	0	1	3	1	1	4
7b	0	0	0	0	0	0
7c	4	6	3	1	0	12
7d	4	12	13	1	0	26
7e	3	8	3	0	0	11
7f	6	9	10	0	0	22
7g	2	9	8	2	0	17
7h	3	3	6	1	0	8
7i	2	1	0	0	0	2
7j	3	2	6	0	0	8
7k	8	9	6	2	0	22
7l	4	7	14	2	0	21
7m	0	1	2	0	0	3
7n	1	2	4	1	0	8
7o	0	2	2	0	0	4
7p	6	10	3	1	0	17
7q	1	1	0	0	0	2
7r	1	0	0	0	0	1
7s	0	0	2	1	0	3
7t	2	1	3	3	0	8
70	1	0	1	0	0	2
7W	16	28	24	4	0	60
7Wab	2	6	11	1	0	17
7Wce	8	8	12	2	0	23
7ab	2	7	14	2	0	21
7Nab	65	105	99	18	0	240
7ce	15	22	18	3	0	46
7Nce	52	90	95	17	0	215

苦
手
な
こ
と

表3-3-1-2-2

「一番苦手なこと」基準の「学校で受けた場合
どこで受けたか」比率

	[2]⑤a	[2]⑤b	[2]⑤c	[2]⑤d	[2]⑤e
7a	0%	25%	75%	25%	25%
7b					
7c	33%	50%	25%	8%	0%
7d	15%	46%	50%	4%	0%
7e	27%	73%	27%	0%	0%
7f	27%	41%	45%	0%	0%
7g	12%	53%	47%	12%	0%
7h	38%	38%	75%	13%	0%
7i	100%	50%	0%	0%	0%
7j	38%	25%	75%	0%	0%
7k	36%	41%	27%	9%	0%
7l	19%	33%	67%	10%	0%
7m	0%	33%	67%	0%	0%
7n	13%	25%	50%	13%	0%
7o	0%	50%	50%	0%	0%
7p	35%	59%	18%	6%	0%
7q	50%	50%	0%	0%	0%
7r	100%	0%	0%	0%	0%
7s	0%	0%	67%	33%	0%
7t	25%	13%	38%	38%	0%
70	50%	0%	50%	0%	0%
7W	27%	47%	40%	7%	0%
7Wab	12%	35%	65%	6%	0%
7Wce	35%	35%	52%	9%	0%
7ab	10%	33%	67%	10%	0%
7Nab	27%	44%	41%	8%	0%
7ce	33%	48%	39%	7%	0%
7Nce	24%	42%	44%	8%	0%

苦
手
な
こ
と

- ・「7b:文書を読むこと」が苦手だと思っている人の3分の1が読み書きについて療育・指導を受けたことがあり([2]④a)、そのうちの半数が「[2]④d:療育センター」だった。
- ・「7c:字を手書きすること」が苦手だと思っている人の4割が読み書きについての指導・療育を受けたことが無い([2]④k)。
- ・「7e:文章を手書きすること」が苦手だと思っている人の半数が読み書きについての指導・療育を受けたことが無い([2]④k)。
- ・「7e:文章を手書きすること」が苦手だと思っている人の半数は、読み書きについての指導・療育を受けたことがあり([2]④a)、「[2]⑤b:通級」で受けた割合が高い。
- ・「7i:読み書きに時間が掛かること」に困っている人の50%半数が、読み書きについての指導・療育を受けたことが無い([2]④k)。
- ・「7i:読み書きに時間が掛かる」ことに困っている人の50%半数は、読み書きについての指導・療育を受けたことがあり([2]④a)、全員、「[2]⑤a:通常の学級」であった。

「一番苦手なこと」と「学齢期の困難さ」との関係

あなたが一番苦手なこと		学齢期の困難さ	
7a	字を読むこと	[3]②a	ノートを取らない
7b	文書を読むこと	[3]②b	書字に時間がかかる
7c	字を手書きすること	[3]②c	板書を写さない
7d	人と話すこと	[3]②d	書くことを嫌がる
7e	文章を手書きすること	[3]②e	夏休みの日記が書けない
7f	説明すること	[3]②f	作文が嫌い
7g	計算すること	[3]②g	漢字学習を嫌がる
7h	金銭管理	[3]②h	宿題をしようしない
7i	読み書きに時間がかかること	[3]②i	読みに時間がかかる
7j	人の話を聞くこと	[3]②j	聞き間違いが多かった
7k	相手にわかりやすく話すこと	[3]②k	読み間違いが多かった
7l	話す相手の言いたい内容を推測すること	[3]②l	スムーズな音読が難しい
7m	落ち着いて物事に取り組むこと	[3]②m	習った漢字が読めない
7n	細かい手作業	[3]②n	文字が汚い
7o	手早く作業を進めること	[3]②o	周囲が気になって授業に集中できない
7p	整理整頓	[3]②p	落ち着きがない・多動・多弁
7q	公共の場で静かにすること	[3]②q	勝手に声が出てしまう
7r	道具や用具を使うこと	[3]②r	身体が勝手に動いてしまい授業に集中できない
7s	その他	[3]②s	片付けができない
7t	特になし	[3]②t	字がマス目に収まらない
70	未回答	[3]②u	筆圧が強すぎる
7W	複数回答	[3]②v	筆圧が弱い
7Wab	複数回答でaかbを含む	[3]②w	体の動きがぎこちない
7Wce	複数回答でcかeを含む	[3]②x	姿勢を保持できない
7ab	全部の回答でaかbを含む	[3]②y	不器用
7Nab	全部の回答でaとbを含まない	[3]②z	算数の文章題が苦手
7ce	全体の回答でcかeを含む	[3]②A	距離感がつかみにくく人や物によくぶつかる
7Nce	全体の回答でcとeを含まない	[3]②B	持ち物をよく失くす
		[3]②D	筆箱など机の上に置いてある物をよく落とす
		[3]②E	動作が乱暴
		[3]②F	用具や道具をすぐに壊す
		[3]②G	特に無かった
		[3]②0	未回答

表3-3-1-3-1-1 「一番苦手なこと」と「学齢期の困難さ」(その1)

	学齢期の困難さ（その1）																	
	[3] ②a	[3] ②b	[3] ②c	[3] ②d	[3] ②e	[3] ②f	[3] ②g	[3] ②h	[3] ②i	[3] ②j	[3] ②k	[3] ②l	[3] ②m	[3] ②n	[3] ②o	[3] ②p	[3] ②q	
苦手なこと	7a	3	2	2	3	2	3	2	2	4	2	2	4	2	2	2	0	0
	7b	0	3	0	1	2	3	1	1	5	1	2	3	1	3	1	1	1
	7c	22	28	23	24	21	23	21	17	11	9	9	11	4	24	10	16	8
	7d	26	38	24	24	32	54	20	21	18	21	11	26	9	33	25	21	7
	7e	18	24	16	16	21	27	15	13	14	11	11	13	5	20	8	11	1
	7f	22	35	24	15	23	42	15	23	24	23	18	25	10	27	20	21	8
	7g	22	32	20	17	17	25	17	24	15	14	14	19	11	28	16	16	4
	7h	8	12	9	4	8	15	4	9	4	4	5	6	1	13	10	10	4
	7i	3	7	3	4	5	7	4	3	5	4	5	5	3	4	4	1	1
	7j	6	7	7	2	6	10	3	1	2	4	1	3	0	6	3	8	2
	7k	16	32	14	16	25	46	9	15	11	18	16	23	4	27	17	25	8
	7l	17	23	16	16	25	40	15	15	13	18	16	19	4	23	19	20	6
	7m	5	7	4	9	5	9	7	6	3	3	4	2	2	9	7	6	3
	7n	5	8	2	4	4	6	4	2	3	3	4	4	0	8	9	6	1
	7o	6	13	6	5	13	14	5	8	6	8	8	6	2	13	6	6	3
	7p	25	27	20	20	22	35	16	26	11	9	13	12	9	28	14	19	7
	7q	1	3	1	1	1	3	2	1	1	3	1	1	1	3	3	4	3
	7r	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7s	4	6	4	4	4	5	2	1	3	2	4	4	0	8	1	5	4
	7t	5	6	3	3	5	9	4	3	0	4	4	5	0	5	6	10	3
	7u	0	6	0	2	4	4	5	2	3	3	5	2	3	5	1	1	0
	7W	59	85	64	50	64	97	50	47	38	41	38	51	23	89	62	69	31
	7Wab	17	20	19	11	21	24	10	10	17	15	14	21	7	19	18	16	9
	7Wce	31	41	33	29	33	46	32	27	17	18	17	24	13	38	26	30	14
	7ab	20	25	21	15	25	30	13	13	26	18	18	28	10	24	21	17	10
	7Nab	253	379	241	225	284	448	208	227	168	187	173	216	84	354	223	259	95
	7ce	71	93	72	69	75	96	68	57	42	38	37	48	22	82	44	57	23
	7Nce	202	311	190	171	234	382	153	183	152	167	154	196	72	296	200	219	82

表3-3-1-3-1-2 「一番苦手なこと」と「学齢期の困難さ」(その2)

	学齢期の困難さ (その2)																計	実数
	[3] ②r	[3] ②s	[3] ②t	[3] ②u	[3] ②v	[3] ②w	[3] ②x	[3] ②y	[3] ②z	[3] ②A	[3] ②B	[3] ②D	[3] ②E	[3] ②F	[3] ②G	[3] ②O		
苦手なこと	7a	0	3	1	1	0	1	0	5	5	0	4	1	1	0	0	59	7
	7b	0	3	2	2	1	2	0	3	3	1	3	2	0	0	0	51	6
	7c	8	18	21	4	21	13	12	19	14	12	19	11	7	11	0	472	34
	7d	5	36	13	14	16	35	19	56	46	11	22	9	11	7	1	712	97
	7e	7	13	14	6	11	13	12	15	18	3	7	4	5	8	0	380	31
	7f	6	30	16	9	15	26	22	38	44	10	19	12	7	7	1	637	67
	7g	2	30	18	8	14	21	12	39	44	10	19	6	7	11	0	553	53
	7h	5	13	7	5	5	5	8	13	13	8	14	6	3	7	0	239	27
	7i	1	3	2	2	2	2	3	3	6	3	3	3	0	0	0	101	10
	7j	4	7	4	1	4	12	8	11	12	5	8	6	4	3	2	162	22
	7k	12	25	12	12	16	34	20	44	45	8	20	4	5	12	2	594	77
	7l	5	26	10	6	14	28	17	43	40	12	20	13	5	13	2	559	67
	7m	2	10	8	6	4	8	8	12	8	9	6	5	3	6	0	187	16
	7n	2	7	4	2	3	8	4	12	6	2	3	4	0	3	1	134	17
	7o	2	15	3	9	2	15	5	23	14	6	10	7	2	4	3	248	30
	7p	8	45	14	7	12	24	14	36	30	10	29	15	15	14	1	587	62
	7q	3	2	2	1	2	2	3	2	2	1	3	1	3	3	0	63	6
	7r	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	1
	7s	4	9	2	3	2	8	3	12	9	3	5	4	3	5	0	133	17
	7t	2	4	1	3	2	6	3	12	7	2	7	1	2	2	1	130	20
	7O	0	2	2	2	0	1	1	4	6	0	4	1	0	2	0	71	9
	7W	21	92	56	37	27	73	56	112	101	37	65	35	23	29	5	1727	180
	7Wab	4	20	11	9	4	14	8	21	26	7	13	5	6	4	0	421	37
	7Wce	11	37	31	18	13	26	21	44	30	14	23	14	7	13	0	771	57
	7ab	4	26	14	12	5	17	8	29	34	8	20	8	7	4	0	531	50
	7Nab	95	368	198	128	168	321	223	486	440	145	270	142	99	143	19	7276	806
	7ce	26	68	66	28	45	52	45	78	62	29	49	29	19	32	0	1623	122
	7Nce	73	326	146	112	128	286	186	437	412	124	241	121	87	115	19	6184	734

表3-3-1-3-2-1 「一番苦手なこと」基準の「学齢期の困難さ」比率（その1）

	学齢期の困難さ（その1）																	
	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	[3]	
	②a	②b	②c	②d	②e	②f	②g	②h	②i	②j	②k	②l	②m	②n	②o	②p	②q	
苦手なこと	7a	43%	29%	29%	43%	29%	43%	29%	29%	57%	29%	29%	57%	29%	29%	29%	0%	0%
	7b	0%	50%	0%	17%	33%	50%	17%	17%	83%	17%	33%	50%	17%	50%	17%	17%	17%
	7c	65%	82%	68%	71%	62%	68%	62%	50%	32%	26%	26%	32%	12%	71%	29%	47%	24%
	7d	27%	39%	25%	25%	33%	56%	21%	22%	19%	22%	11%	27%	9%	34%	26%	22%	7%
	7e	58%	77%	52%	52%	68%	87%	48%	42%	45%	35%	35%	42%	16%	65%	26%	35%	3%
	7f	33%	52%	36%	22%	34%	63%	22%	34%	36%	34%	27%	37%	15%	40%	30%	31%	12%
	7g	42%	60%	38%	32%	32%	47%	32%	45%	28%	26%	26%	36%	21%	53%	30%	30%	8%
	7h	30%	44%	33%	15%	30%	56%	15%	33%	15%	15%	19%	22%	4%	48%	37%	37%	15%
	7i	30%	70%	30%	40%	50%	70%	40%	30%	50%	40%	50%	50%	30%	40%	40%	10%	10%
	7j	27%	32%	32%	9%	27%	45%	14%	5%	9%	18%	5%	14%	0%	27%	14%	36%	9%
	7k	21%	42%	18%	21%	32%	60%	12%	19%	14%	23%	21%	30%	5%	35%	22%	32%	10%
	7l	25%	34%	24%	24%	37%	60%	22%	22%	19%	27%	24%	28%	6%	34%	28%	30%	9%
	7m	31%	44%	25%	56%	31%	56%	44%	38%	19%	19%	25%	13%	13%	56%	44%	38%	19%
	7n	29%	47%	12%	24%	24%	35%	24%	12%	18%	18%	24%	24%	0%	47%	53%	35%	6%
	7o	20%	43%	20%	17%	43%	47%	17%	27%	20%	27%	27%	20%	7%	43%	20%	20%	10%
	7p	40%	44%	32%	32%	35%	56%	26%	42%	18%	15%	21%	19%	15%	45%	23%	31%	11%
	7q	17%	50%	17%	17%	17%	50%	33%	17%	17%	50%	17%	17%	17%	50%	50%	67%	50%
	7r	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	7s	24%	35%	24%	24%	24%	29%	12%	6%	18%	12%	24%	24%	0%	47%	6%	29%	24%
	7t	25%	30%	15%	15%	25%	45%	20%	15%	0%	20%	20%	25%	0%	25%	30%	50%	15%
	70	0%	67%	0%	22%	44%	44%	56%	22%	33%	33%	56%	22%	33%	56%	11%	11%	0%
	7W	33%	47%	36%	28%	36%	54%	28%	26%	21%	23%	21%	28%	13%	49%	34%	38%	17%
	7Wab	46%	54%	51%	30%	57%	65%	27%	27%	46%	41%	38%	57%	19%	51%	49%	43%	24%
	7Wce	54%	72%	58%	51%	58%	81%	56%	47%	30%	32%	30%	42%	23%	67%	46%	53%	25%
	7ab	40%	50%	42%	30%	50%	60%	26%	26%	52%	36%	36%	56%	20%	48%	42%	34%	20%
	7Nab	31%	47%	30%	28%	35%	56%	26%	28%	21%	23%	21%	27%	10%	44%	28%	32%	12%
	7ce	58%	76%	59%	57%	61%	79%	56%	47%	34%	31%	30%	39%	18%	67%	36%	47%	19%
	7Nce	28%	42%	26%	23%	32%	52%	21%	25%	21%	23%	21%	27%	10%	40%	27%	30%	11%

表3-3-1-3-2-2 「一番苦手なこと」基準の「学齢期の困難さ」比率（その）2

	学齢期の困難さ（その2）																計	
	[3] ②r	[3] ②s	[3] ②t	[3] ②u	[3] ②v	[3] ②w	[3] ②x	[3] ②y	[3] ②z	[3] ②A	[3] ②B	[3] ②D	[3] ②E	[3] ②F	[3] ②G	[3] ②O		
苦手なこと	7a	0%	43%	14%	14%	0%	14%	0%	71%	71%	0%	57%	14%	14%	0%	0%	843%	
	7b	0%	50%	33%	33%	17%	33%	0%	50%	50%	17%	50%	33%	0%	0%	0%	850%	
	7c	24%	53%	62%	12%	62%	38%	35%	56%	41%	35%	56%	32%	21%	32%	0%	3%	1388%
	7d	5%	37%	13%	14%	16%	36%	20%	58%	47%	11%	23%	9%	11%	7%	1%	1%	734%
	7e	23%	42%	45%	19%	35%	42%	39%	48%	58%	10%	23%	13%	16%	26%	0%	0%	1226%
	7f	9%	45%	24%	13%	22%	39%	33%	57%	66%	15%	28%	18%	10%	10%	1%	0%	951%
	7g	4%	57%	34%	15%	26%	40%	23%	74%	83%	19%	36%	11%	13%	21%	0%	2%	1043%
	7h	19%	48%	26%	19%	19%	19%	30%	48%	48%	30%	52%	22%	11%	26%	0%	4%	885%
	7i	10%	30%	20%	20%	20%	20%	30%	30%	60%	30%	30%	30%	0%	0%	0%	0%	1010%
	7j	18%	32%	18%	5%	18%	55%	36%	50%	55%	23%	36%	27%	18%	14%	9%	0%	736%
	7k	16%	32%	16%	16%	21%	44%	26%	57%	58%	10%	26%	5%	6%	16%	3%	1%	771%
	7l	7%	39%	15%	9%	21%	42%	25%	64%	60%	18%	30%	19%	7%	19%	3%	0%	834%
	7m	13%	63%	50%	38%	25%	50%	50%	75%	50%	56%	38%	31%	19%	38%	0%	6%	1169%
	7n	12%	41%	24%	12%	18%	47%	24%	71%	35%	12%	18%	24%	0%	18%	6%	0%	788%
	7o	7%	50%	10%	30%	7%	50%	17%	77%	47%	20%	33%	23%	7%	13%	10%	0%	827%
	7p	13%	73%	23%	11%	19%	39%	23%	58%	48%	16%	47%	24%	24%	23%	2%	0%	947%
	7q	50%	33%	33%	17%	33%	33%	50%	33%	33%	17%	50%	17%	50%	50%	0%	0%	1050%
	7r	0%	100%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	600%
	7s	24%	53%	12%	18%	12%	47%	18%	71%	53%	18%	29%	24%	18%	29%	0%	0%	782%
	7t	10%	20%	5%	15%	10%	30%	15%	60%	35%	10%	35%	5%	10%	10%	5%	0%	650%
	7o	0%	22%	22%	22%	0%	11%	11%	44%	67%	0%	44%	11%	0%	22%	0%	0%	789%
	7W	12%	51%	31%	21%	15%	41%	31%	62%	56%	21%	36%	19%	13%	16%	3%	0%	959%
	7Wab	11%	54%	30%	24%	11%	38%	22%	57%	70%	19%	35%	14%	16%	11%	0%	3%	1138%
	7Wce	19%	65%	54%	32%	23%	46%	37%	77%	53%	25%	40%	25%	12%	23%	0%	0%	1353%
	7ab	8%	52%	28%	24%	10%	34%	16%	58%	68%	16%	40%	16%	14%	8%	0%	2%	1062%
	7Nab	12%	46%	25%	16%	21%	40%	28%	60%	55%	18%	33%	18%	12%	18%	2%	1%	903%
	7ce	21%	56%	54%	23%	37%	43%	37%	64%	51%	24%	40%	24%	16%	26%	0%	1%	1330%
	7Nce	10%	44%	20%	15%	17%	39%	25%	60%	56%	17%	33%	16%	12%	16%	3%	1%	843%

- ・「7a:字を読むこと」が苦手な人は、学齢期に「[3]②y:不器用」「[3]②z:算数の文章題が苦手だった」だった割合が高い。
- ・「7b:文章を読むこと」が苦手な人は、学齢期に「[3]②i:読みに時間が掛かっていた」割合が高い。
- ・「7c:字を手書きすること」が苦手な人は、学齢期に「[3]②a:ノートを取らない」「[3]②b:書字に時間が掛かる」「[3]②c:板書を写さない」「[3]②d:書くことを嫌がる」「[3]②e:夏休みの日記が書けない」「[3]②f:作文が嫌い」「[3]②g:漢字学習を嫌がる」「[3]②n:文字が汚い」「[3]②t:字がマス目に収まらない」「[3]②v:筆圧が弱い」割合が高い。
- ・「7e:文章を手書きすること」が苦手な人は、学齢期に「[3]②b:書字に時間が掛かる」「[3]②e:夏休みの日記が書けない」「[3]②f:作文が嫌い」「[3]②n:文字が汚い」割合が高い。
- ・「7i:読み書きに時間がかかること」に困っている人は、学齢期に「[3]②b:書字に時間が掛かる」「[3]②f:作文が嫌い」「[3]②z:算数の文章題が苦手だった」割合が高い。

2. IT機器の利用との関連

(1) 「本人が身につけている方法」と「読み書きへの支援の要望」との関連

	どうしたらわかりやすくなると思うか
13a	質問に丁寧に答えてくれる人がほしい
13b	調べやすいホームページがほしい
13c	重要な箇所がわかるような書類にしてほしい
13d	わかりやすい書類の記入例がほしい
13e	文字を大きくしてほしい
13f	記入する欄を大きくしてほしい
13g	背景と文字の色の使い方を考えてほしい
13h	相談に乗ってくれる人がほしい
13i	QRコードやバーコードの利用を考えて欲しい
13j	音や映像で伝えるアプリが欲しい
13k	提出用紙をパソコンで入力できる書式でダウンロードできるようにしてほしい
13l	手書きではなくパソコンなどの使用ができるようにしてほしい
13m	タブレットでタッチして選択形式で記入できる申込書や申請書が欲しい
13n	作成した書類の確認を気軽に頼めるところが欲しい
13o	その他
130	未回答

	文章の読み書きの苦手さを補う手段として本人が身に付けている方法
[4]②a	パソコン・スマホなどの利用
[4]②b	読み上げソフトの利用
[4]②c	音声入力ソフトの利用
[4]②d	紙の書類にパソコンで入力できるソフトの利用
[4]②e	内容の説明や代読・代筆など周囲に支援を求める
[4]②f	特にない
[4]②g	その他
[4]②0	未回答

表3-3-2-1-1 「本人が身につけている方法」基準の「わかりやすくなる方法」比率

	本人が身につけている方法								計
	[4]②a	[4]②b	[4]②c	[4]②d	[4]②e	[4]②f	[4]②g	[4]②0	
わかりやすくなる方法	13a	191	4	8	6	159	90	20	495
	13b	103	2	2	1	60	41	7	223
	13c	160	3	5	3	100	86	17	388
	13d	189	3	9	8	137	101	24	481
	13e	53	2	1	1	30	21	5	117
	13f	68	3	2	2	51	23	8	162
	13g	35	2	1	1	20	11	2	75
	13h	178	3	8	7	141	87	19	456
	13i	42	2	2	2	21	5	4	80
	13j	37	2	2	1	26	10	1	84
	13k	67	1	3	6	32	16	6	134
	13l	97	2	5	8	42	24	6	191
	13m	97	3	7	5	50	24	9	200
	13n	155	3	7	5	117	56	21	375
	13o	24	0	2	1	17	18	4	72
	130	43	0	0	1	13	62	1	136
計	1539	35	64	58	1016	675	154	128	3669
実数	400	5	10	14	240	275	36	56	1036

表3-3-2-1-2 「本人が身につけている方法」基準の「わかりやすくなる方法」比率

		本人が身につけている方法								計
		[4]②a	[4]②b	[4]②c	[4]②d	[4]②e	[4]②f	[4]②g	[4]②o	
わかりやすくなる方法	13a	48%	80%	80%	43%	66%	33%	56%	30%	48%
	13b	26%	40%	20%	7%	25%	15%	19%	13%	22%
	13c	40%	60%	50%	21%	42%	31%	47%	25%	37%
	13d	47%	60%	90%	57%	57%	37%	67%	18%	46%
	13e	13%	40%	10%	7%	13%	8%	14%	7%	11%
	13f	17%	60%	20%	14%	21%	8%	22%	9%	16%
	13g	9%	40%	10%	7%	8%	4%	6%	5%	7%
	13h	45%	60%	80%	50%	59%	32%	53%	23%	44%
	13i	11%	40%	20%	14%	9%	2%	11%	4%	8%
	13j	9%	40%	20%	7%	11%	4%	3%	9%	8%
	13k	17%	20%	30%	43%	13%	6%	17%	5%	13%
	13l	24%	40%	50%	57%	18%	9%	17%	13%	18%
	13m	24%	60%	70%	36%	21%	9%	25%	9%	19%
	13n	39%	60%	70%	36%	49%	20%	58%	20%	36%
	13o	6%	0%	20%	7%	7%	7%	11%	11%	7%
	13o	11%	0%	0%	7%	5%	23%	3%	29%	13%
	計	385%	700%	640%	414%	423%	245%	428%	229%	354%

- ・読み上げソフトや音声入力ソフトを利用している場合 ([4]②b,[4]②c) でも、本人が「13a:質問に丁寧に答えてくれる人」や「13d:わかりやすい書類の記入例」「13h:相談に乗ってくれる人」「13n:作成した書類の確認を気軽にしてくれるところ」が欲しい割合が高い。

(2) 「本人の読み書きの工夫」と「親が将来的に利用できるようになって欲しいサポート」との関連

表3-3-2-1-2

書類を読んだり書いたりするときに、工夫していること

8a	IT機器の読み上げソフトを使って確認している
8b	パソコンやスマホで漢字を確認する
8c	IT機器の音声入力ソフトを利用している
8d	提出書類は鉛筆で下書きしている
8e	紙の書類にパソコンで入力できるソフトを利用している
8f	提出用紙は複数枚コピーして書き直しできるようにしている
8g	読みやすいフォントに変換してから読んでいる
8h	その他
8i	特にない
80	未回答

将来的に本人が利用できるようになって欲しいサポート

[4]③a	パソコンでの文字入力
[4]③b	読み上げソフトの利用
[4]③c	音声入力ソフトの利用
[4]③d	紙の書類にパソコンで入力できるソフトの利用
[4]③e	安心して気軽に相談できる窓口
[4]③f	内容の説明や代読・代筆などをしてくれる日常生活上の支援者
[4]③g	支援機器やサービスの情報提供
[4]③h	動画や音声で伝えてもらえるソフトの導入
[4]③i	特にない
[4]③0	未回答

表3-3-2-2-1 「本人の読み書き工夫」と「本人が利用できるようになってほしいサポート」

		将来的に本人が利用できるようになって欲しいサポート										計	実数
		[4]③a	[4]③b	[4]③c	[4]③d	[4]③e	[4]③f	[4]③g	[4]③h	[4]③i	[4]③0		
本人の読み書きの工夫	8a	1	3	2	4	10	10	6	3	2	1	42	15
	8b	42	14	25	61	291	144	110	46	38	19	790	392
	8c	1	1	2	2	11	5	1	2	0	1	26	14
	8d	28	12	18	43	178	97	82	32	16	11	517	226
	8e	5	2	7	13	35	14	16	8	4	5	109	48
	8f	16	7	12	25	96	54	47	20	6	6	289	118
	8g	1	1	2	4	16	7	9	2	3	1	46	24
	8h	6	5	6	9	45	36	14	9	3	0	133	53
	8i	14	6	7	27	217	114	55	23	28	13	504	293
	80	0	1	1	1	14	10	3	1	1	3	35	21
計		114	52	82	189	913	491	343	146	101	60	2491	1204

表3-3-2-2 「本人の読み書き工夫」基準の

「本人が利用できるようになってほしいサポート」比率

		将来的に本人が利用できるようになって欲しいサポート										計
		[4]③a	[4]③b	[4]③c	[4]③d	[4]③e	[4]③f	[4]③g	[4]③h	[4]③i	[4]③j	
本人の読み書きの工夫	8a	7%	20%	13%	27%	67%	67%	40%	20%	13%	7%	280%
	8b	11%	4%	6%	16%	74%	37%	28%	12%	10%	5%	202%
	8c	7%	7%	14%	14%	79%	36%	7%	14%	0%	7%	186%
	8d	12%	5%	8%	19%	79%	43%	36%	14%	7%	5%	229%
	8e	10%	4%	15%	27%	73%	29%	33%	17%	8%	10%	227%
	8f	14%	6%	10%	21%	81%	46%	40%	17%	5%	5%	245%
	8g	4%	4%	8%	17%	67%	29%	38%	8%	13%	4%	192%
	8h	11%	9%	11%	17%	85%	68%	26%	17%	6%	0%	251%
	8i	5%	2%	2%	9%	74%	39%	19%	8%	10%	4%	172%
	8j	0%	5%	5%	5%	67%	48%	14%	5%	5%	14%	167%
計		9%	4%	7%	16%	76%	41%	28%	12%	8%	5%	207%

- ・本人が「8a:IT機器の読み上げソフト」や「8c:音声入力ソフト」「8e:紙の用紙にPCから入力できるソフト」「8g:読みやすいフォントへの変換」など工夫をしている場合でも、親は「[4]③e:安心して気軽に相談できる窓口」があればと思っている割合が高い。

3. 親の座談会

「読み書き困難についてのライフステージを通じた切れ目ない支援」

(1) 本調査における親の座談会の目的

親の会の会員は、そのほとんどが、「苦手な部分は助けてもらいながらも、どうにか自立した生活を送れるおとなになって欲しい」「必要な時には、自分で助けを求められるようになって欲しい」と思って、子育てをしてきた。しかし、「自己理解が大切」というものの、教えてすぐ身につくような力ではなく、成長しておとなになっても、それぞれが葛藤しながら模索しているのが現実である。「ライフステージを通じた切れ目のない支援」のあり方について考えるため、学齢期から大人になった現在までの、子どもの読み書きについての状況と顕在化されにくい理由について、親の会会員が話し合う場を設定することにした。

(2) 座談会の概要

座談会は、東京の親の会会員4名に協力依頼した。自己紹介後、子どもの幼児期・学齢期の様子、現在の読み書き困難の状況、支援の現状について、各自テーマに沿って話した。座談会の時間は、3時間であった。

座談会終了後、内容をデータ化し、4名それぞれに対して確認を依頼し、データの修正を行った。またその際に不明な点等についても補足を行った。

(3) 内容

司会：きょうは「おとなの読み書き困難」について、お話を伺いたと思います。親の会の会員からは、子どもが小学生のときは、「教科書がうまく読めない」「板書が写せない」「ノートがとれない」といった話をよく聞きますが、子どもが成長しておとなになった現在、ご本人の「読む」「書く」はどんな状況でしょうか。

A：うちの場合は、仕事では「書く」という作業はありません。年末調整と契約書にサインする程度です。短期記憶が弱いので、小さい頃からメモすることを教えましたし、今は大切なことはカメラで撮ったりしています。

B：うちも短期記憶が弱いので、父親が使うような一人前の手帳を渡して、「メモしていくんだよ」ということを随分言いました。読み書きはあまり好きではありませんが、大切なことは書いておかないといけないと、だんだんわかってきました。今では、休みの日でもポケットに小さなメモを入れています。

C：うちは、事務系の特例子会社で働いていますが、「聞いて書く」のは間に合わないですね。会社のミーティングの議事録担当になった時はとても大変で、「無理なので」と言って、代わってもらったそうです。会社で電話をとった時どうしているのか聞いたところ、話を聞きながら同時には書けないので、電話を切ってからメモをするんだそうです。記憶がすごく良いわけではないけれど、聞きながら書くよりは、覚えて書いたほうが楽ということなんですね。

B：会社の報告書などはパソコンで打つんですが、漢字変換のミスをよく指摘されるようです。手書きの作業そのものはパソコンで代用できても、漢字の変換は漢字が読めないと確定できないですから。以前は、文章など全く書けませんでした。最近は報告書の文章も書けるようになってきたようです。でも、本人が持っているホームページの文章を見ていると、「あ」と「は」を間違えたりしています。「時々、読み直さない」と言っていますが、その見直し作業は難しいようですね。

A: 親の会の青年たちが会報用に送ってくる原稿も、変換ミスが多いです。打った文章を読み返していないんですね。「原稿は、送信する前に読み返すこと」と言っています。

司会: 親の会の会報に載っている青年たちの原稿は、個性的で楽しいものが多いです。自分の好きなことを書くのは、嫌いではない子も多いように思いますが、いかがですか。

C: うちは、小学校の時、ひらがなは一応書けたし、毎日の日記の宿題1ページ分を書くこともできましたが、漢字がだめでした。あと、板書を写すのが間に合いませんでした。でも、漢字が嫌いなのではないし、文章を書くのも好きです。今も、字はひよろひよろしていて汚いし、自分の名前の字もとても小さく書くし、親から見ると恥ずかしい字なんですけど、旅行に出たら必ず友達数名に葉書を出しています。支援機関などで講演会へ行った時は、その報告書を担当したりしています。

A: うちも小学校低学年の時は、「おかあさん」を「おかあちん」と書いたりして、「さ」と「ち」と「き」の区別ができなかったり、教科書も逐次読みで一字一字読んだりしていましたが、中学生のときから漢字が好きになって、高校に入って漢検2級を取りました。本を読むのも好きです。

C: うちの子も書くこと自体は嫌いにならなかったのですが、手帳も仕事用とプライベート用と二つ持っていてメモしていると言っていました。小説や詩なんかも好きです。でも、ものすごく不器用なのと、あと、中学生で英語が始まったときに、簡単なスペルのテストが0点でした。縦線に丸が上についているのか、下についているのか、左右のどちらについているのかわからなくて、bとdとpとqの区別ができませんでした。漢字は書くのは大変だけど、読むのは好きで、難読漢字など良く知っています。

B: 興味を持つということが、嫌いにならない一番大きい要素なんじゃないかな。

司会: 「読み書きが苦手」といっても、自分の好きなことを自分のペースで、読んだり書いたりするのは、大丈夫なんですね。本人たちも「読み書きが苦手」とは言わない場合が多いです。ただ、仕事として一定の時間、ある程度のスピードで書類を読み、書いていくということになると、全然間に合わなくて、苦労するようです。

B: うちの子は、読み書きについての苦手意識はとても強いんです。会社の仕事について、誰にも見せませんが、自分がやった内容やしなければいけないことをノートに書いています。大切なことを忘れてしまっても、そのノートを見たら大丈夫な状態にしておきたい。だから、読み書きはとても苦手だけれど、書いておかないといけないといった不安感がものすごくあるんだと思います。

D: うちは、手先の微細運動に問題があって、枠の中に文字が入らないとか、漢字の偏と旁が逆になってしまうとか、漢字の線が一本多い少ないとか、そういうことはたくさんありました。視機能検査では、眼球を上へ持ってくる動きがしにくいようで、縦書きを読むことが苦手だと言っています。読んではいけるけど、重要な箇所がどこなのか捉えることが難しいです。焦点化できないというか、意味をきちんととれていないことがあります。

司会: 今、スマホでは友だち同士のやり取りでも短い文章が普通なので、スマホを使うようになって、だんだん文章の構成がじょうずになったという話を聞きますが、どう思いますか。

C: 画面の下に以前打った単語や文章が出てくるので、それを選んで短い文章を組み合わせて作ることで、文の構成もわかっていくところがあるんじゃないですか。

B: うちの子がどうにか会社で報告書を作れるようになったのは、最初は会社が穴あきの形式の報告書を作ってくれて、そこに入力すればいいようになっていたからです。穴のところを埋めていけば、毎日の報告が仕上がるので、だんだん「報告書はこういう形で作るんだ」と順番がわかってきて、今は報告書が作れるようになってきたということです。最初から高度なものを求められたら、今のようになれるようにならなかったと思います。何事も、嫌にならないように続けていくということが大切ですね。

司会: 読み書き困難が顕在化されにくい理由として、「自分が読み書きは苦手だと思っていない」ということと、「自分の読み書きの困難さを言いたくない」ということがあるように思います。ご本人にそういったところがありますか。

B: どんな人でも、長い学齢期の間に、「努力で身につく」といった価値観は、かなり絶対的な意識として持っています。ですから、「できないのは自分の努力が足りないんだ」と、思っているところがありますね。あと、ひとり暮らしをしています。家電を購入した時など、取り扱い説明書を読むことが苦手で、途中でやめてしまうそうです。ひとりで生活していると、親も気がつかない生活上の不自由さがたくさんあると思います。一人暮らしを始めて、一人前の生活や仕事を目指している中で、不自由だけれど、「言いたくない」「触れられたくない」ところなのかもしれません。

A: うちの子も「受援力」がなくて、聞きに行くということをしません。「役所でも銀行でも、わからなかったら教えてくれる人はいるよ」とは教えていますが、聞きに行こうとは思っていない感じがですね。

D: 「聞くこと」についてプライドがあって、おとなとして見られているであろう自分がこんな質問したら、「この人、こんな質問をしてきた」と思われることを自分なりにわかっていて、そんなプライドがあって聞きに行かないのでしょうね。「読み書き」になると、余計「自分ではできないと思われたくない」のだと思います。

B: 私たちは年取ってきて何でも聞いてしまうけれど、私たちが聞けるのは、「自分はそんなに苦手じゃないけど、これは読めないのよ」「このことだけは詳しくないのよ」という、私たちは別分野はわかっているんだという意識があるからかもしれないです。それに、私たちは小学校1年生の漢字を聞くことはまず無いですけど、うちの子たちの場合、「もしかしたら、自分は簡単なこともわかっていなくて、こんなことを聞いたらバカにされる」と思っているんだとしたら、やはり聞けないですね。

D: 「自分がわかっていないことを見せたくない」という意識は強いですね。こういった彼らのプライドがあるから、逆に小さい頃からの辛いことを、どうにか乗り越えてこれたのかもしれない。

B: 社会に出てから、そういったプライドを親以外のところで見せると、確かに言い方もあると思いますが、「生意気だ」と言われたりすることがあります。健常者が同じようなことを言っても何も言われないのに、障害者が同じようなことを言うと、何か言われる。時々、その人の障害観が見える時がありますね。

司会: 親の会では、「親亡き後」のことが課題になってきています。「読み書き」についても、全く読み書きができないわけではないけど、生活していく上で、読み書きについて家族のサポートが無くなったら、ひとりでやっていくのは難しいだろうと思うことはたくさんあります。どんな支援があったらいいと思いますか。

- B: 「切れ目ない支援」といいますが、実際のところ、障害者就労するときには、支援機関のお世話になっても、社会人の生活が落ち着いていたら、やはり切れ目ができる状態になりやすいです。
- D: 就職した後、職場であまり問題がないと、間遠になってしまって、支援に来てくれなくなってしまうがちです。支援機関も、もっと急ぎの支援が必要な所に行ってしまうので、結局切れ目ができてしまいます。そうするとちょっと心配なことがあっても、結局は支援が無いのと同じことになってしまいます。知らないうちに、支援機関の担当だった人がかわってしまうということもあります。「必要な時につながる」のは、確かに「必要ではない時には、つながる必要が無い」ということなんですけど、「必要な時にもつながらなくなってしまう」という状況が多いですね。
- B: 生活面で日頃、ホームヘルプやガイドヘルプのようなサービスを使っていたら、日常のちょっとした相談事も支援機関につながりやすいけど、切れ目ができてしまうと、また一からつなげる作業が必要になります。親がいたらどうにかつなげようと思いますけど、本人だけだとかなり大変な作業になります。「切れ目ない支援」と思って、子どもに必要なサービスをいろいろ頼んでみたこともありますが、支援者もいろいろで、本人が一度支援者を信用できないと感じたら、「もう支援なんかいない」と思ってしまうところがあります。
- A: うちの子は障害者手帳を持っていないので、何の支援もなくやっています。でも、他の人が言っている話が良く分からない時もあるし、自分の言いたいことがうまく伝わっていないときもあるので、そういう場合、家族がいなくてひとりだったら、どこに相談に行けばいいのかわからないですね。
- C: 障害者への支援という枠組みではなく、社会全体で「困っている人への支援」というところでの枠組みがあったらいいですね。
- B: 「読み書き困難」というのは、日本にいる外国の人や子ども達にも当てはまることですし、障害者手帳の有無というより、「誰でも困ったときに相談できる場所」がまず必要なんだろうと思います。常に支援が必要なわけではないけど、必要な時に必要な支援を受けられるようになって欲しいです。「町のお助けカフェ」のようなところがあったらいいですね。
- C: 気軽に相談に乗ってくれるような場というのは、やはり行きやすくないと機能しないと思います。たくさん支援してくれとは言わないので、少し本人ができないところや、頑張っても難しいところを手助けしてくれるような人や場が、身近なところに欲しいです。
- B: どうしても、「ある程度の人数を集めて、何かをする」というような企画になりがちですが、そういった集団が苦手に参加したくない人も多いので、個別に困りごとの相談に乗って、的確に支援に結び付けてくれるようなところですね。
- 司会: 「発達障害者の顕在化しにくい読み書き困難」ということで、先日、皆さんにもアンケート調査にご協力いただきましたが、アンケートの集計結果と合わせて、きょうの座談会での内容もまとめて、報告したいと思います。

4. 地域による比較

回答数が50件以上の都道府県を対象として、読み書き困難に対する療育や指導に地域差があるかどうか比較した。

表3-3-4-1-1

	読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか													
	[2]④	[2]④	[2]④	計	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④	[2]④
	a	k	0		b	c	d	e	f	g	h	i	j	
1 北海道	33	31	0	64	15	6	6	2	6	1	2	9	8	
13 東京都	24	30	3	57	15	2	3	2	5	0	1	5	1	
14 神奈川県	41	37	1	79	28	2	11	4	1	4	0	8	6	
15 新潟県	44	44	1	89	31	5	3	7	0	1	0	7	2	
19 愛知県	57	75	0	132	29	3	9	18	4	1	1	17	7	
29 大阪府	45	38	2	85	29	2	9	8	2	1	3	6	7	
30 兵庫県	30	43	2	75	13	4	5	0	5	1	1	1	6	
40 福岡県	28	26	0	54	17	2	5	6	2	1	0	3	4	
8都道府県計	302	324	9	635	177	26	51	47	25	10	8	56	41	
全体	499	554	16	1069	301	47	80	83	56	14	16	89	61	

表3-3-4-1-2 「読み書きについて療育や指導」比率

	読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか											
	[2]④a	[2]④k	[2]④0	[2]④b	[2]④c	[2]④d	[2]④e	[2]④f	[2]④g	[2]④h	[2]④i	[2]④j
1 北海道	52%	48%	0%	45%	18%	18%	6%	18%	3%	6%	27%	24%
13 東京都	42%	53%	5%	63%	8%	13%	8%	21%	0%	4%	21%	4%
14 神奈川県	52%	47%	1%	68%	5%	27%	10%	2%	10%	0%	20%	15%
15 新潟県	49%	49%	1%	70%	11%	7%	16%	0%	2%	0%	16%	5%
19 愛知県	43%	57%	0%	51%	5%	16%	32%	7%	2%	2%	30%	12%
29 大阪府	53%	45%	2%	64%	4%	20%	18%	4%	2%	7%	13%	16%
30 兵庫県	40%	57%	3%	43%	13%	17%	0%	17%	3%	3%	3%	20%
40 福岡県	52%	48%	0%	61%	7%	18%	21%	7%	4%	0%	11%	14%
8都道府県計	48%	51%	1%	59%	9%	17%	16%	8%	3%	3%	19%	14%
全体	47%	52%	1%	60%	9%	16%	17%	11%	3%	3%	18%	12%

- ・読み書きについて療育や指導を受けたのは、どの地域でも約半数で地域による差はみられない。
- ・療育や指導を受けた機関は、どの地域でも「[2]④b:学校」が最も多いが、北海道では「[2]④i:学習塾」、神奈川県では「[2]④d:療育センター」、愛知県では「[2]④e:医療機関併設の療育機関」「[2]④i:学習塾」も比率が高い。

	読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか
[2]④a	ある
[2]④k	ない
[2]④0	未回答

	読み書きについて療育や指導を受けた場所
[2]④b	学校
[2]④c	児童発達支援センター
[2]④d	療育センター
[2]④e	医療機関併設の療育機関
[2]④f	大学等研究機関
[2]④g	児童発達支援事業所
[2]④h	放課後等デイサービス事業所
[2]④i	学習塾
[2]④j	その他

表3-3-4-2-1

読み書きについて療育や指導を学校で受けたばあいの場所

	学校で受けた場合、どこで受けたか					実数
	[2]⑤	[2]⑤	[2]⑤	[2]⑤	[2]⑤	
	a	b	c	d	0	
1 北海道	4	8	4	0	0	15
13 東京都	5	9	5	1	0	15
14 神奈川県	11	6	15	4	1	28
15 新潟県	8	10	16	3	0	31
19 愛知県	9	10	13	3	0	29
29 大阪府	12	11	15	2	0	29
30 兵庫県	3	6	6	1	0	13
40 福岡県	0	13	6	0	0	17
8都道府県計	52	73	80	14	1	177
全体	78	127	129	24	1	301

表3-3-4-2-2

「学校内で療育や指導を受けた場所」の比率

	学校で受けた場合、どこで受けたか				
	[2]⑤	[2]⑤	[2]⑤	[2]⑤	[2]⑤
	a	b	c	d	0
1 北海道	27%	53%	27%	0%	0%
13 東京都	33%	60%	33%	7%	0%
14 神奈川県	39%	21%	54%	14%	4%
15 新潟県	26%	32%	52%	10%	0%
19 愛知県	31%	34%	45%	10%	0%
29 大阪府	41%	38%	52%	7%	0%
30 兵庫県	23%	46%	46%	8%	0%
40 福岡県	0%	76%	35%	0%	0%
8都道府県計	29%	41%	45%	8%	1%
全体	26%	42%	43%	8%	0%

- ・学校内では、「[2]⑤c:支援学級」や「[2]⑤b:通級」で療育や指導を受けた比率が全体的に高い。
- ・学校内で、「[2]⑤a:通常の学級」で療育や指導を受けた比率も全体的に比較的高いが、福岡県だけは低くなっている。

	学校で指導を受けた場合、どこで読み書きの指導を受けたか
[2]⑤a	通常の学級
[2]⑤b	通級
[2]⑤c	支援学級
[2]⑤d	支援学校
[2]⑤0	未回答

分析・考察

まず、DD(発達性読み書き障害)が顕在化しにくい理由として、DD が ASD(自閉スペクトラム症)や ADHD(注意欠如・多動症)など他の発達障害と併存することが多く、行動や情緒の特性のほうが目されやすいことが挙げられる。また、「全く読めない」「全く書けない」ではなく、その状況が環境や本人の特性や体調等によって変わるということも、更に周囲の理解を難しくしている。発達障害者自身、「読み」「書き」そのものは決して嫌いではなく、むしろ、自分のペースで、興味あることを読み書きするのであれば、得意かもしれない。しかし、仕事として一定の速さ、正確さを求められると、困難な状況が生じるのは、支援者や親からのヒアリングで挙げられているとおりである。

発達障害者本人へのアンケート集計では、自分の得意なこと(複数回答のため全体は 321%)は「ひとりで物事に取り組むこと」が最も多く(41%)、次いで「文章を読むこと」(29%)、「最後まで作業を完成させること」(26%)の順であった(表 1-2-1)。「文章を書くこと」も(17%)が得意なこととして挙げており、「文章を読むこと」「文章を書くこと」が得意だと思っている人もいることがわかる。

しかし、発達障害者の親へのアンケート集計では、読み書きについての親の本人へのサポート状況は、「文書の内容の説明・確認」が 54%と最も多く、次に「提出期限など文書の管理」が 42%となっており、文字や文章の読み書き等、文書については親や家族が支援している状況が伺える。親は子どもの現在の読み書き困難の状況として、「本人だけでは障害者手帳の更新など役所等への書類が作成できない」ことを一番に挙げており、働くうえでも「文書の内容把握のためには説明が必要」「報告書等の書類が書けない」が多かった。「読み書き」等について、「安心して気軽に相談できる窓口が必要」という回答も 73%と圧倒的に多い。読み書き困難についての、発達障害者本人と親との意識の乖離が認められる。

しかしながら、発達障害者は自尊感情の低さが多くの研究により指摘されているが、本事業のアンケート結果では、得意なものは特にないという回答があるものの、「新しい方法やアイデアを思いつくこと」や「計算すること」などが、少なからず自分の得意なところとして挙げられている。適切な環境が設定されていれば、自己肯定感を損ねることなく生活していけることを示している。

発達障害者の読み書き困難における社会的障壁であるが、街中の看板や交通機関の表示については、「文書を読むこと」が苦手な人は、「バスや電車の行き先などが読みにくい」「案内図などの字や説明がわかりにくい」「絵のサイン(表示)も意味がわからないものがある」割合が多かった。「読み書きに時間がかかる」人は、「流れるテロップなどは読みにくい」割合も高く(表 1-3-1-2-2)、「ディスレクシア」の診断がある人は、「アルファベットの表記などがわかりにくい」割合が高い(表 1-3-1-4-2)。

商品や製品の説明書・契約書については、「どこが重要かわかりにくい」「説明文がわかりにくい」人が多い(表 1-3-2-1)。「文書を読むこと」が苦手な人は、「文字ばかりで読みにくい」「字が小さい」点を挙げている(表 1-3-2-3-2)。

わかりにくい書類としては、20 才代では「健康保険や年金など役所からの書類」「契約についての書類」、30 才代では、更に「銀行や郵便局など金融機関からの書類」「証券会社や保険会社などからの金融商品についての書類」も加わり、年代が上がるにつれて、わかりにくい書類が多くなっていく。各年代で触れることが多い書類に対して「わかりにくい」と答える人が多い(表 1-3-3-2-2)。

わかりにくい書類に対して求める支援は、「質問に丁寧に答えてくれる人」「わかりやすい書類の記入例」「相談に乗ってくれる人」が欲しいという割合が多い。年代に関係なく、ICT 等を利用した支援より、「人」の支援を求めていることが伺える(表 1-3-3-6-2)。

また、「文書を読むこと」が苦手な人は、「作成した書類の確認を気軽に頼めるところが欲しい」割合

が高い(表 1-3-3-8-2)。「読み書きに時間が掛かる」人は、「重要な箇所がわかるような書類にしてほしい」「わかりやすい書類の記入例がほしい」といった割合が高い(表 1-3-3-8-2)。本人がどのような読み書きの工夫をしている、本人宛の書類はわかりにくい点も示されている(表 1-3-3-9-2)。

働くうえでの困難さとしては、「文書の内容把握のためには説明が必要」が47%で最も多く、次いで「報告書等の書類が書けない」の41%となっている(表 2-3-2-1)。「ディスレクシア」の人は、「読み書きが苦手なので、職種が限られる」「仕事に必要なメモがとれない」「文書の内容把握のためには説明が必要」「文書の読み書きに時間が掛かる」「報告書などの書類が書けない」といったすべてに困っている(表 2-3-2-2-2)。また、「年末調整の書類」や「履歴書の記入」、「電話や伝言のメモ」の困難も多く、特に「文書を読むこと」が苦手な人は、「電話や伝言が正しくメモできない」ことで困っている割合が高い(表 1-3-4-3-2)。

子どもの学齢期における読み書きについての療育や指導については、「ない」(52%)ほうが「ある」(47%)より多く、半数を超えている(表 2-1-6-1)。学校で読み書きの指導を受けたことがある「ディスレクシア」と「協調運動障害」は「通級」で受けた割合が高い。一方、学校で読み書きの指導を受けたことがある「チック・トゥレット症」は「通常の学級」でのみ(100%)となっている(表 2-1-6-4-2)。また、「診断・判定」を受けた時期が早いほど、読み書きについての療育・指導につながっている。中学校以降に「診断・判定」を受けた場合は、読み書きについての指導を受けていない割合が高い(表 2-1-6-5-2)。早期発見・早期支援の重要性を示唆するものと言えよう。

文章の読み書きの苦手さを補う手段として本人が身に付けている方法としては、診断名に限らず「パソコン・スマホなどの利用」が46%と一番多く、「パソコンやスマホで漢字を確認」している。支援者のヒアリングにもあるように、「携帯では短い文で送受信することが多く、携帯を使うようになって文章がうまくなった」ということから、周囲の誰もが使用している汎用性のある一般機器が、本人にとっても使いたいという気持ちが続く、使いやすいものであるといえよう。一方で、診断名に限らず「IT 機器の音声入力ソフト」や「紙の書類にパソコンで入力できるソフト」の利用の割合は低い。発達障害者本人からのヒアリングでは、キーボード操作よりスマホの親指入力のほうが体への負担感が少ないといった意見も複数出ていたことから、場所を選ばず、操作性の高い機器のほうが、日常の生活に合わせて、それぞれが使いこなしやすいと考えられる。

「ディスレクシア」の診断がある人は、提出書類を「鉛筆で下書き」したり、「複数枚コピーして書き直してできるように」といった工夫をしている割合が高い(表 3-1-3-2)。

読み書きが苦手だと認識している場合は、していない場合と比べて、IT 機器の読み上げソフトや音声入力ソフト、紙への PC 入力ソフトなどの利用に積極的ではないかと予想していたが、両者にそれ程の差はなく、自分は読み書きが苦手だと思っても、IT 機器の読み書き支援ソフトの利用は多くないことがわかった。IT 機器のソフトの利用等は、おとなになって便利だからと積極的に利用するのは個人差が大きく、学齢期から、自らに合った使用方法を試行錯誤しながら取り入れていく過程があってこそ、仕事や生活に役立つものとして、情報にアクセスして取り入れ、機能するものであることを示しているといえる。

「読み書き困難についての自己理解」については、すべての「診断名」で「字を読むこと」「文章を読むこと」が苦手だと思っている割合は低い(表 3-1-2-2)。しかし、「読み」と「書き」を比べると、すべての「診断名」で、「字を読むこと」「文章を読むこと」よりも「文字を手書きすること」が苦手だと思っている割合は高く(表 3-1-2-2)、本人は「読む」ことより「書く」ことへの困難を認識しやすいと言える。それは、支援者のヒアリングにもあるように、どう見えるかは生まれ持ったものなので、本人にもそれが読みにくい状況だとは気がつきにくい、「書く」ことについては、周囲も書いたものがわかるので、「間違っ

いる」「おかしい」という指摘が入りやすいことによるものと思われる。

読み書き困難は、「全く読めない」「全く書けない」わけではないが、読み書きにかなりの努力が必要で、時間が掛かってしまう。本事業では、読み書きが苦手な人に文字によるアンケート調査をするという方法を選んだため、読み書き困難がある人の参加は難しかったと考えられる。その点では、他の多くの調査などにおいても、読み書き困難がある人は自分の意見を反映させにくいということになる。読み書き困難がある人の参加を容易にし得る調査方法については、今後の課題といえる。情報へのアクセシビリティの確保や社会参画という側面からも、重要なことと考える。

検討委員会の実施状況

○検討委員会の設置

平成 30 年 9 月 28 日付の本事業採択内示を受け、7 名の検討委員を選定し、承諾を得て、同年 10 月 1 日、検討委員会を設置した。

＜検討委員＞

竹田 契一（大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学 LD センター顧問）
奥村 智人（大阪医科大学 LD センター）
若宮 英司（藍野大学医療保健学部看護学科教授）
品川 裕香（教育ジャーナリスト・編集者）
高山 恵子（NPO 法人えじそんくらぶ代表・臨床心理士・薬剤師）
井上 育世（特定非営利活動法人全国 LD 親の会）
東條 裕志（特定非営利活動法人全国 LD 親の会）

○第 1 回検討委員会

日時：平成 30 年 10 月 20 日（土） 18:00－21:00

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）4 階 小会議室 2

出席：竹田契一・奥村智人・若宮英司・品川裕香・高山恵子・井上育世

オブザーバー：田中尚樹

（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室）

欠席：東條裕志

＜議題＞1.事業実施計画及びスケジュール

2.アンケート調査について

(1)アンケート調査概要

平成 30 年 10 月 23 日 アンケート印刷・発送予定（2000 部送付予定）

平成 30 年 11 月 20 日 アンケート回答締め切り

・親用アンケートでは、成育歴・親から見た現状を中心に設問

・本人用アンケートでは、読み書きについての社会的障壁を訊ねる設問

(2)アンケート内容検討

a.親用アンケート用紙

- ・読み書きについての療育・指導場所を加筆修正
- ・「幼児期の困難さ」について検討・修正
- b. 本人用アンケート用紙
 - ・苦手なこと項目選択肢について検討・修正
 - ・医療機関の書類・役所の書類の設問を「読み書き」について内容整理
- (3) アンケート結果分析予定確認
- 3. ヒアリング調査
 - (1) 本人へのヒアリング調査
 - (2) 支援者・支援機関へのヒアリング調査

○第2回検討委員会

日時：平成31年2月23日（土） 18:00－21:00

場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）4階 小会議室3

出席：竹田契一・奥村智人・若宮英司・品川裕香・高山恵子・東條裕志・井上育世

オブザーバー：田中尚樹

（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室）

＜議題＞1. アンケート調査

- (1) 経過報告 (2) 配布数報告 (3) アンケート回収数報告 (4) 最終データ数確認
- (5) 分析・クロス項目 検討

2. ヒアリング調査

- (1) 本人へのヒアリング確認 (2) 支援者・支援機関へのヒアリング確認
- (3) 親の座談会について

3. 事業担当者によるまとめ会議 平成31年2月9-10日

事業の状況確認・報告書作成等まとめ作業分担・スケジュール確認

4. 事業成果の情報発信について

○ヒアリングについて

発達障害者本人へのヒアリング：品川裕香（教育ジャーナリスト・編集者）

支援者へのヒアリング：井上育世（NPO法人全国LD親の会）

成果等の公表計画

本事業の成果については、下記のように公表する計画である。（平成31年3月末現在）

○特定非営利活動法人全国LD親の会のホームページへ掲載 <http://jpald.net/>

○2019年6月16日（日）第18回全国LD親の会公開フォーラム

14:45～16:30 シンポジウム（厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業報告）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

○日本LD学会第28回大会親の会企画シンポジウム

会場：パシフィコ横浜 会議センター